

立命館大学 生命科学部

Activities

Career

学生生活を充実させる

先輩たちの ストーリー

Vol.2

Laboratory

Class

- Department of Applied Chemistry
- Department of Biotechnology
- Department of Bioinformatics
- Department of Biomedical Sciences

2026

ご挨拶

「学生生活を充実させる先輩たちのストーリー Vol.2」の作成に寄せて

皆さんは、大学生活を通して、自らのキャリア(将来の就職・就業や人生のライフプラン)を少しずつ描いていくことになります。

大学4年間、あるいは大学院での大学生活の中で、すでに明確なビジョンを持っている方もいれば、将来について模索している方、やりたいことはあるものの、どのように一步を踏み出せばよいのか分からずにいる方も多いのではないのでしょうか。

本冊子『学生生活を充実させる先輩たちのストーリー』は、そうした皆さんに向けて、立命館大学生命科学部・生命科学研究科の先輩方が、在学中に取り組んできた正課・正課外の活動や、そこで得た学び、成長につながったエピソード、そしてキャリア選択に影響を与えた経験やきっかけを紹介するものです。

本号は、Vol.1(2025年3月発行)の発行以降、新たな寄稿者をお迎えし、内容をさらに充実させたVol.2となります。Vol.1にご寄稿いただいた先輩方に加え、新たに多くの先輩方のご協力を得て、計29名の先輩方の経験を掲載することができました。学部在学学生、大学院生、卒業生・修了生と立場も多様であり、研究、課外活動、留学、社会との関わり、進路選択など、その内容は実に幅広いものとなっています。こうした多様な歩みは、学生生活やキャリアの描き方に決まった形がないことを示してくれています。

また、本冊子は先輩方の経験を紹介するだけでなく、学内で相談できる部署や支援体制を紹介するガイドとしての役割も併せ持っています。学生生活の中で迷いや不安を感じたときに、次の一步を考えるための手がかりとしても活用していただければ幸いです。

先輩方一人ひとりの歩みは、特別な成功談ではなく、迷い、考え、試行錯誤を重ねながら進んできた等身大の経験です。その姿からヒントを得て、「挑戦をもっと自由に ~Challenge your mind, Change our future~」のもと、皆さん自身の学生生活とキャリアを主体的に描いてほしいと願っています。

本冊子が、皆さんの学生生活をより充実したものにするための一助となることを期待しています。

立命館大学 生命科学部 企画研究・進路就職担当 副学部長
花崎 知則



STORIES OF SENIORS ENRICHING STUDENT LIFE

学生生活を充実させる先輩たちのストーリー

CONTENTS

No.	学科・コース・専攻	タイトル	研究室で身についた力	ページ
01	生命医科学コース・M2 薬理学研究室	挑戦を重ねる中で見つけた、 研究の面白さ	課題発見力 論理的思考力 問題解決力	5
02	生物工学コース・M2 応用分子微生物学研究室	未知に向き合う中で見つけた、 研究者としての道	論理的思考力 主体性 コミュニケーション力	6
03	修了生 博士・生命科学専攻修了 光機能物理学研究室	考え、まとめ、伝える力が 活きる今	計画力 論理的思考力 コミュニケーション力	7
04	応用化学コース・M2 無機電気化学研究室	研究は一人ではできないと 実感した日々	主体性 論理的思考力 コミュニケーション力	8
05	修了生 修士・生命情報学コース修了 組織機能解析学研究室	観察と実践を重ねて身につけた、 自信と力	論理的思考力 課題発見力 問題解決力	9
06	卒業生 学部・生命医科学卒業 タンパク質修飾生物学研究室	研究で培った姿勢を、 社会の仕組みづくりへ	問題解決力 計画力 論理的思考力	10
07	修了生 博士・生命科学専攻修了 超分子創製化学研究室	『面白い』を原動力に、 試行錯誤を楽しむ研究	課題発見力 問題解決力 コミュニケーション力	11
08	応用化学コース・M2 有機材料化学研究室	世界に触れる経験が、 成長の原点になった	主体性 計画力 コミュニケーション力	12
09	修了生 修士・生命情報学コース修了 組織機能解析学研究室	異なるアプローチをつなぐ 研究に挑んで	論理的思考力 コミュニケーション力 問題解決力	13
10	生命科学専攻・D1 生物計算研究室	主体的な選択を重ねて広がった 研究の世界	自己表現力 主体性 計画力	14
11	卒業生 学部・生命医科学卒業 タンパク質修飾生物学研究室	地道な積み重ねが、 進路を切り拓いた	計画力 論理的思考力 コミュニケーション力	15
12	生命医科学コース・M2 病態生理代謝学研究室	研究を「設計する」視点を 身につけて	主体性 論理的思考力 コミュニケーション力	16
13	応用化学コース・M2 有機材料化学研究室	言葉と生活の壁を越えて 築いた自信	コミュニケーション力 主体性 問題解決力	17
14	卒業生 学部・生命情報学卒業 生物計算研究室	学びの現場から見えた、 社会を支える仕事	主体性 コミュニケーション力 問題解決力	18

No.	学科・コース・専攻	タイトル	研究室で身についた力	ページ
15	卒業生 学部・生命医科学卒業 プロテオミクス研究室	自分にとことん向き合った 大学生活	課題発見力 計画力 論理的思考力	19
16	卒業生 学部・生物工学科卒業 応用分子微生物学研究室	仕事で活かせる力が身につく 学生生活	コミュニケーション力 問題解決力 課題発見力	20
17	修了生 修士・応用化学コース修了 生命無機反応化学研究室	友人と好奇心に支えられながら の奮闘	主体性 計画力 問題解決力	21
18	修了生 修士・生命情報学コース修了 組織機能解析学研究室	課題と向き合い、挑戦を重ねた 私の学生生活	計画力 自己表現力	22
19	修了生 修士・生物工学コース修了 酵素工学研究室	学生時代の様々な経験が 社会で活きる	コミュニケーション力 問題解決力 論理的思考力	23
20	卒業生 学部・生物工学科卒業 生体分子化学研究室	考えて行動する環境下で 主体性が身につきました	計画力 コミュニケーション力 主体性	24
21	修了生 修士・生命医科学コース修了 薬理学研究室	課外活動から研究室生活まで 充実した6年間	主体性 コミュニケーション力 問題解決力	25
22	修了生 博士・生命科学専攻修了 生体分子ネットワーク研究室	好きなことに打ち込んだ 充実の研究生活	課題発見力 論理的思考力 問題解決力	26
23	生物工学コース・M1 構造生命科学研究室	学部生が自分の時間を 最大化する方法	計画力 集中力 体力	27
24	生命科学専攻・D1 高分子材料化学研究室	新しいことに挑戦し続けた 研究生活	主体性 論理的思考力 コミュニケーション力	28
25	生命科学専攻・D3 生体分子ネットワーク研究室	研究に夢中になった学生生活	コミュニケーション力 自己表現力 課題発見力	29
26	修了生 博士・生命科学専攻修了 薬理学研究室	自身の興味を突き詰めるために 研究に励んだ日々	コミュニケーション力 論理的思考力 計画力	30
27	修了生 博士・生命科学専攻修了 生体分子化学研究室	興味あることに挑戦し続けた 学生生活	主体性 コミュニケーション力 問題解決力	31
28	修了生 修士・生物工学コース修了 構造生命科学研究室	充実した研究活動を通じた 挑戦と成長	計画力 論理的思考力 集中力	32
29	修了生 博士・生命科学専攻修了 有機材料化学研究室	墮落の大学生活から 大幅に成長できた大学院生活	問題解決力 論理的思考力 課題発見力	33

各制度のご紹介 34

生命科学専攻における進路・就職データ 36

学科カラーに色分け

ページの端は学科毎に色分けしているので、どの学科の出身か、一目でわかります。

■ 応用化学科 ■ 生物工学科
■ 生命情報学科 ■ 生命医科学科

正課授業・研究室生活

先輩の目線で、正課授業や研究室生活の学びの魅力を語ってもらいました。

挑戦を重ねる中で見つけた、研究の面白さ

01



正課授業・研究室生活
 研究室で、「脳梗塞後にミクログリアが樹状突起スパインをどのように貪食しているのか」の解明に力を入れて取り組みました。現象を数値化して評価するため、新たな画像解析方法を確立しました。研究を進める中で、必要な条件検討がうまくいかず、何ヶ月も大きな進展がないこともありましたが、一つ一つの実験で得られたデータを研究室の先生方に共有することで、常に冷静に状況を整理しながら研究を進めることができ、適切な実験条件を見つけることができました。

2025年度M2
 生命医科学コース 薬理学研究室
高橋 瞳 さん
 内定先企業の業種：R&D(研究開発)職
 課外活動：体育会女子ラクロス部・アルバイト：551蓬萊

研究室で身についた力 課題発見力 論理的思考力 問題解決力

研究室で身についた力

紹介する経験で身についた力を先輩達に選んでもらいました。

先輩の基本情報

取り組んだ活動とその成果

先輩が成長したと実感した経験を紹介します。どのような苦労をどう乗り越えたか、読んでみてください。

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?
 学部生時代は、体育会女子ラクロス部の活動に力を入れて取り組みました。大学1年生からコロナ禍の影響で思うように練習ができず、私は大学からラクロス始めたこともあり、試合に出場できない時期がありました。しかし、チームメイトと共に励まし合いながら自主練習をすることで、スターティングメンバーとして試合に出場することができました。院生時代は、大学1年生から継続しているアルバイトに力を入れて取り組みました。できる仕事が増え、先輩の指導も任せてもらえるようになりました。

その後、研究室に入り、本格的に研究を始めると、研究の楽しさや面白さ、自分の興味をほとんど追求できる環境に魅了され、さらに院進学への決意が固くなりました。
研究室で身についた成長につながったと感じたエピソードは?
 研究を進めていく中で、そのテーマを解明するためにはどんな仮説が考えられるのか、またその仮説を明らかにするためにどんな実験が必要かを常に考える必要があります。研究室に配属された直後は、仮説を立てる際に論理が飛躍してしまっていることも多かったのですが、最近では論理的に1段階ずつ仮説を立て、実験を計画することでできるようになりました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?
 大学3年生の時に経験した就職活動と研究室での研究が私のキャリアに大きな影響を与えてくれました。私は食品の研究開発職を目指し、大学3年生で就職活動を始めました。その際、面接などで出会った大学院生と比較して、自分の知識や研究経験の薄さを痛感し、院進学を決めました。

学生生活の軌跡


学生生活の軌跡 (モチベーショングラフ)

先輩の学生生活におけるモチベーションの推移を紹介します。モチベーションが低下していた時期を特定し、その原因を分析することで、今後の改善策を考えたり、モチベーションが上がったポイントを見つけ、成功体験を将来に活かします。是非参考にしてみてください。

〈グラフ内ポイント〉
😊 High
😞 Low

挑戦を重ねる中で見つけた、研究の面白さ

01



正課授業・研究室生活

研究室で、「脳梗塞後にミクログリアが樹状突起スパインをどのように貪食しているのか」の解明に力を入れて取り組みました。現象を数値化して評価するため、新たな画像解析方法を確立しました。研究を進める中で、必要な条件検討がうまくいかず、何ヶ月も大きな進展がないこともありましたが、一つ一つの実験で得られたデータを研究室の先生方に共有することで、常に冷静に状況を整理しながら研究を進めることができ、適切な実験条件を見つけることができました。

2025年度M2
 生命医科学コース 薬理学研究室
高橋 瞳 さん
 内定先企業の業種：R&D(研究開発)職
 課外活動：体育会女子ラクロス部・アルバイト：551蓬萊

研究室で身についた力 課題発見力 論理的思考力 問題解決力

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

学部生時代は、体育会女子ラクロス部の活動に力を入れて取り組みました。大学1年生からコロナ禍の影響で思うように練習ができず、私は大学からラクロス始めたこともあり、試合に出場できない時期が続きました。しかし、チームメイトと共に励まし合いながら自主練習をすることで、スターティングメンバーとして試合に出場することができました。院生時代は、大学1年生から継続しているアルバイトに力を入れて取り組みました。できる仕事が増え、先輩の指導も任せてもらえるようになりました。

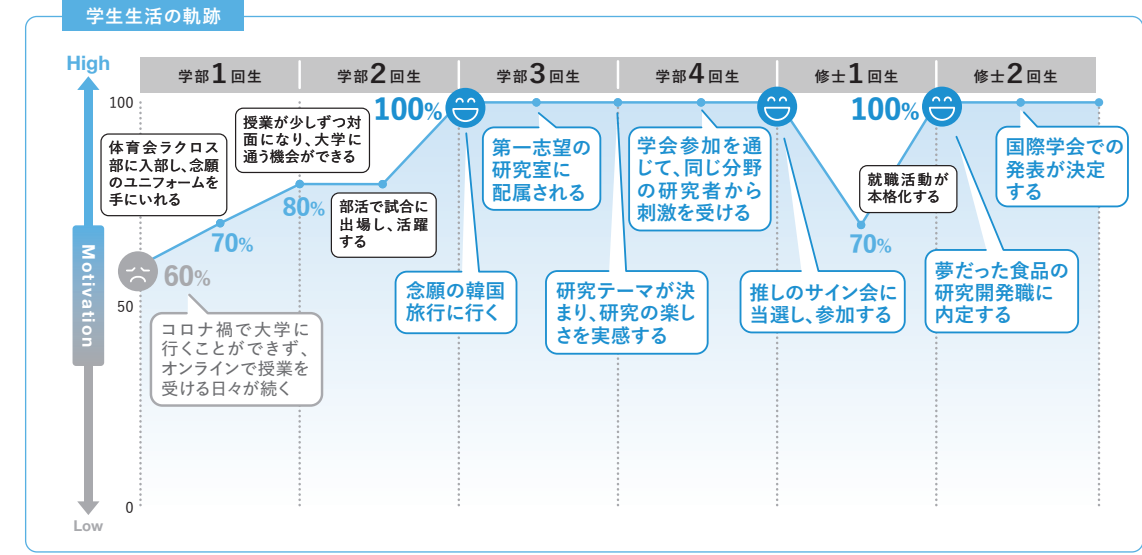
キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

大学3年生の時に経験した就職活動と研究室での研究が私のキャリアに大きな影響を与えてくれました。私は食品の研究開発職を目指し、大学3年生で就職活動を始めました。その際、面接などで出会った大学院生と比較して、自分の知識や研究経験の薄さを痛感し、院進学を決めました。

その後、研究室に入り、本格的に研究を始めると、研究の楽しさや面白さ、自分の興味をほとんど追求できる環境に魅了され、さらに院進学への決意が固くなりました。

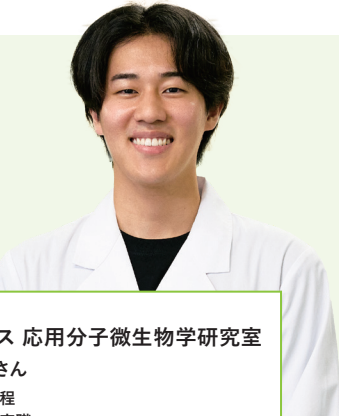
研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究を進めていく中で、そのテーマを解明するためにはどんな仮説が考えられるのか、またその仮説を明らかにするためにどんな実験が必要かを常に考える必要があります。研究室に配属された直後は、仮説を立てる際に論理が飛躍してしまっていることも多かったのですが、最近では論理的に1段階ずつ仮説を立て、実験を計画することでできるようになりました。



未知に向き合う中で見つけた、研究者としての道

02



2025年度M2
 生物工学コース 応用分子微生物学研究室
工藤 碧斗 さん
 進路：博士後期課程
 希望進路：製薬研究職
 課外活動：軽音楽サークル

正課授業・研究室生活

研究室に配属されてからは、思い通りに結果が得られず、計画通りに進まない難しさを何度も経験しました。しかし、そのたびに原因を考え、先輩や教員に相談しながら試行錯誤を重ねることで、少しずつ課題を乗り越えることができました。実験やデータ整理を通して、「地道な努力の積み重ねが成果につながる」ということを実感できたのは、大きな成長だったと感じています。この経験を通して、物事に最後まで粘り強く取り組む姿勢と、困難な状況でも前向きに改善策を考える力を身につけることができました。

研究室で身についた力 **論理的思考力** **主体性** **コミュニケーション力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

私は大学入学当初から軽音楽サークルに所属し、バンド活動を通して協調性や責任感を培いました。ライブイベントの企画や練習スケジュールの調整など、メンバーと協力しながら音楽づくりに取り組みました。特に力を入れたのは、学園祭ライブに向けた練習です。メンバーの予定が合わず、思うように全体練習ができない時期もありましたが、個人練習を重ね、互いに演奏を共有しながら連携を深めました。その結果、本番では納得のいく演奏ができ、観客からも大きな拍手をいただくことができました。この経験を通して、目標に向かって仲間と協力し、粘り強く努力を積み重ねることの大切さを学びました。また、メンバーの意見を尊重しながら自分の考えを伝えることで、良好なチームワークを築く力も身につけることができました。

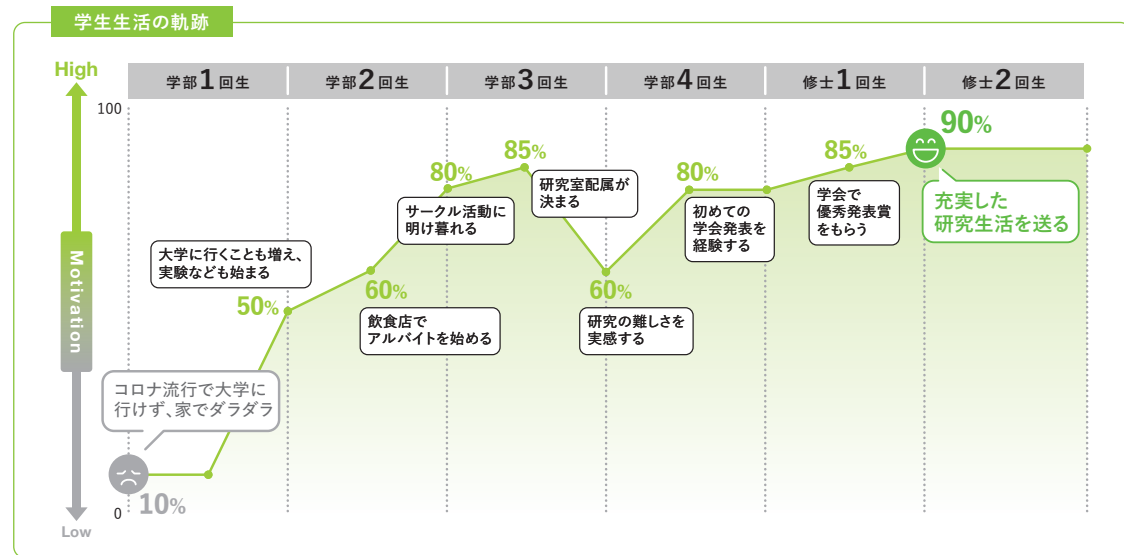
キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

研究活動を通して、「世の中は分からないことであふれている」ということを強く感じました。教科書に書かれていることは、膨大な知の一部に過ぎず、まだ誰も明らかにしていない現象が数多く存在します。修士課程での研究では、実験結果が予想と合わないこともしばしばありましたが、その「分からない理由」を突き止める過程こそが最も刺激的で、自分

が研究に惹かれる理由だと気づきました。仮説を立て、検証を重ね、少しずつ理解が深まっていく過程に大きなやりがいを感じました。この経験を通して、未知の現象に真剣に向き合い、新しい知識を生み出す力を身につけたいと考えようになりました。その思いが、博士課程に進学し、研究者として学問の発展に貢献したいという現在のキャリア選択につながっています。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究を進める中で、思い通りに結果が得られないことがありましたが、そのたびに自ら原因を考え、実験条件や方法を見直しました。単に教員や先輩からの指示を待つのではなく、自分で仮説を立てて次の手を考えることで、主体的に研究を進める姿勢が身についたと感じています。また、得られたデータを整理・考察する過程では、論理的に物事を捉える力が求められました。仮説を一つひとつ検証し、筋道を立てて結論を導く訓練を重ねたことで、論理的思考力が大きく向上したと感じています。さらに、研究の方針を検討する際には、教員や他の学生と意見を交換しながら進めることが多く、限られた時間で正確に情報を伝える力や、相手の意見を理解して建設的に議論する力も養うことができました。これらの経験を通して、研究を支える基礎的な力を着実に身につけられたと感じています。



考え、まとめ、伝える力が生きる今

03



修了生
 2025年3月 博士・生命科学専攻修了
 光機能物理学研究室
吉岡 大祐 さん
 お勧め先企業の業種と職種：機械系・研究開発職
 課外活動：軽音サークル

正課授業・研究室生活

研究生活では結果を出しそれを成果(論文)としてまとめることを意識していました。一方で、研究結果は必ず出るといってもなく、失敗が続くことも本当に多かったです。しかし、それで悩んでも仕方がないと思っていました。なので、失敗も受け入れとりあえず手を動かしがむしやりに実験をしました。いつしか、それが楽しく感じるようになり、その甲斐あってか結果にもつながりました。

研究室で身についた力 **計画力** **論理的思考力** **コミュニケーション力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

コミュニケーションを積極的にとることを頑張りました。今でこそひょうきんで人懐こいといわれますが、大学に入ったころは真逆でかなり人見知りをするタイプでした。居酒屋でバイトを始めた時は本当にお客さんやしゃべるのも大変だったことを覚えています。しかし、サークルやバイト先でたくさんの人と接していくうちに、自分の話やすい間や態度を掴めたような気がします。また、自分から動くことで回りが動いてくれることも学びました。この対人スキルは今でも活かしているように感じます。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

もともと科学に興味があり、幼少のころからダーウィンなどの偉人にあこがれていました。おそらく今思うと研究者を意識し始めたのは4回生で参加した若手の会だと思います。学会というお堅い感じがしますが若手の会は学生や助教くらいの人が対象の研究会というイメージです。当時、夜には飲み会があったのですが、そこで若い博士の学生さんや助教の先生が喜々と自分の研究を堂々と語っていて、なんかいいな、自分

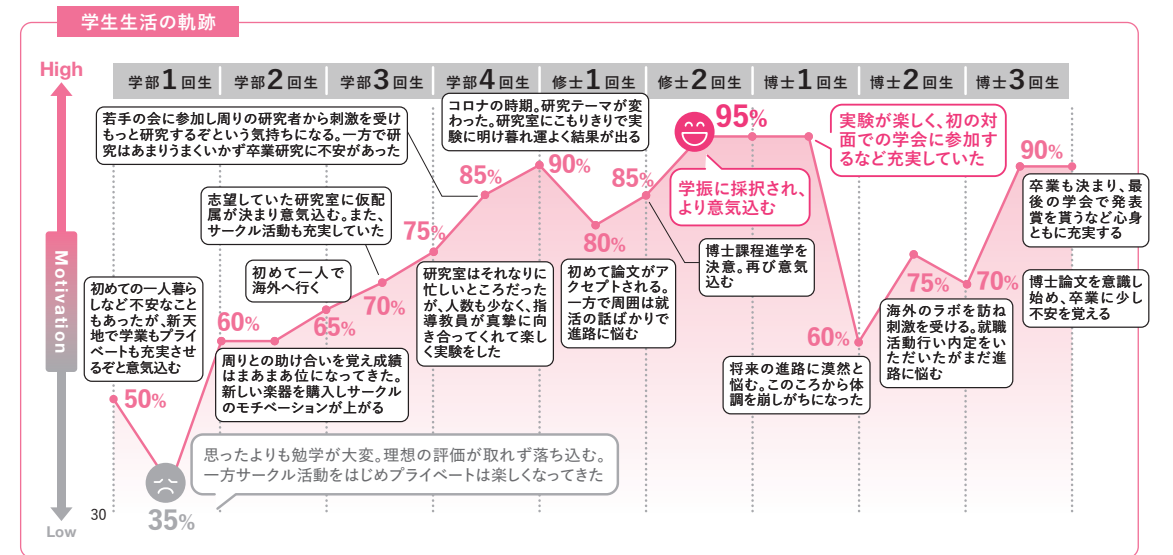
もこんな風にしゃべれるくらい面白いことをやりたいなと思いました。おそらくそこから博士課程の進学は頭にあったと思います。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究をまとめるフェーズになると何が情報で何がわからないのか、どういう道筋でまとめていくのが重要になってくると感じます。そのためには、いついつまでにこれをするや思わぬ事態に対応する計画力、問題に当たった時の思考力、詰まった時に人を利用するコミュニケーション力やその他の力も必要です。研究生生活全体を通してそれを感じました。

現在のお仕事内容を簡単に紹介ください。

現在は社内の分析センターに配属され、たくさんの手法を用いて多角的な面から全社の製品の分析、解析に貢献しています。



研究は一人ではできないと実感した日々

04



2025年度M2
応用化学コース 無機電気化学研究室
正舩 剛成 さん
内定先企業の業種：電池メーカー
課外活動：アルバイト・焼肉屋

正課授業・研究室生活

【正課授業】理科の教員免許取得に力を入れて取り組みました。正課の授業に加え、教職課程の授業も受講する必要があり、成績を維持することに苦労しました。そこで、自主学習に加え、週に1回、友人と分からない部分を教え合う時間を設けました。友人たちと教え合うことで、自分の分からない部分を補えるだけでなく、相手に説明することで自分の理解もさらに深まりました。その結果、成績を維持しながら教員免許を取得することができ、周りとの協力を大切さを実感しました。

【研究室生活】新規電池材料の合成に力を入れて取り組みました。新規物質の合成を行う中で、不純物を含まない新規物質のみを得る合成条件を探すことに苦労しました。合成条件を確立するため、得られた実験データを自分なりに考察し、研究室メンバーや教授と議論を重ねながら何度も実験条件を変えて合成を行いました。たくさんの失敗した実験結果から、不純物を取り除くためのヒントを得ることができ、最終的に不純物を取り除いた新規物質の合成条件を確立することができました。この経験から、最後までやりきる力が身についたと思います。

研究室で身についた力 **主体性** **論理的思考力** **コミュニケーション力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

飲食店でホールスタッフとしてアルバイトをしていました。最初はホール全体の状況を把握するのが難しく、料理の提供順や次のお客様の案内がうまくできませんでした。そのため、お客様にとって快適なサービスを提供することと効率的な動き方を意識しながら取り組むことで、少しずつ成長できました。最終的には、ホールの全体業務を一任され、全体の状況を把握し、他のスタッフをサポートすることもできるようになりました。この経験を通じて、状況に応じて臨機応変に対応する力が身につけることができたと思います。

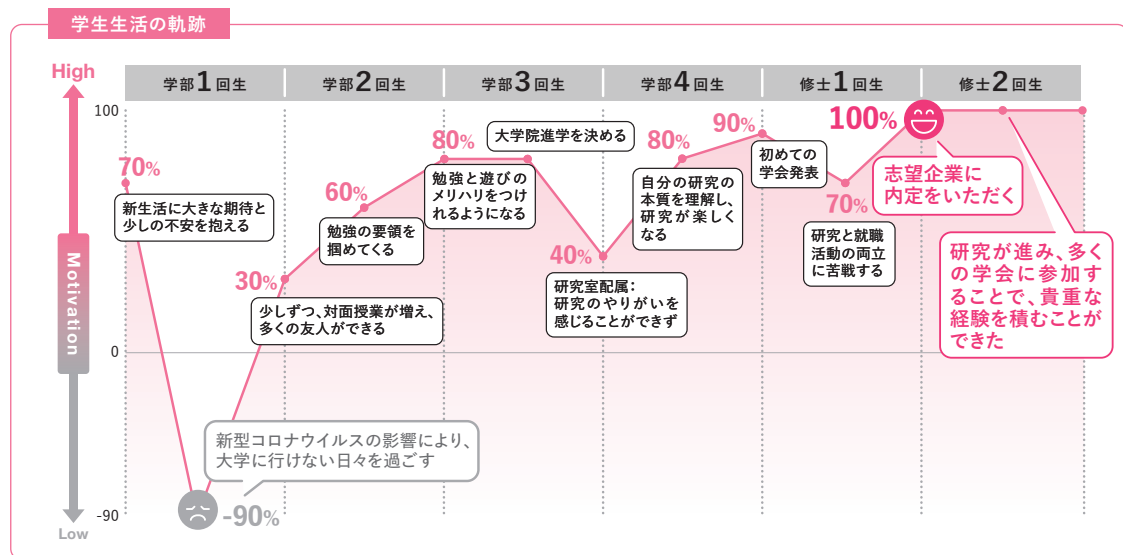
キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

就職先の企業を選ぶ際に影響を受けたのは、研究室の先輩方です。私は人々の生活を豊かにできる仕事であること、自分自身が成長できる環境が整っていることの2点を重視して就職活動を行っていました。そんな中、先輩方が就職された企業による研究室向けの説明会に参加した際に、事業内容を知るだけでなく、社員1人ひとりがやりがいをもって働いていると感じました。

実際に、就職先のインターンシップに参加すると、先輩方の話通りで、自身の就職活動の軸と一致していると感じました。以上の理由から、その企業を就職先に選びました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

日々の研究や学会参加を通じて、主体性・論理的思考力・コミュニケーション力が身についたと感じています。研究では、1人で考えて実験することも重要ですが、人との関わりが研究を進めるうえで欠かせないと実感しました。そのためには、主体的に行動することに加え、自分がどこで壁にぶつかっているのかを理解し、それを相手に分かりやすく伝える力が必要だと考えています。学会発表においても同様で、相手に自分の研究の魅力をどう伝えるかを意識して取り組みました。これらの経験は、大学院生だからこそ得られる貴重なものであり、大学院に進学して本当に良かったと感じています。



観察と実践を重ねて身につけた、自信と力

05



2019年3月 修士・生命情報学コース 修了
組織機能解析学研究室
高延 さゆり さん
お勤め先企業の業種と職種：家庭用医療機器製造・アルゴリズム開発職
課外活動：マジックサークル、塾講師アルバイト

正課授業・研究室生活

学生時代では、基礎となる知識体系の構築が最も大変でした。循環器を扱う研究室に入ったため、心臓の挙動、心筋細胞などの動きを一から学びました。教科書に載っている内容に留まらず、新しい知識を習得する事は大変な労力を要しました。また、プログラミングの基礎は正課授業でも行っていたのですが、既存のシミュレーションモデルを扱う際には、新しいプログラミング言語で書いてあるのでその習得にも苦労を経験しました。研究室の同期と共に、先生の元で心筋細胞の動きの勉強会を実施したり、論文を読み込むことで、情報を収集しました。プログラミング技術の習得においては、これは現在も感じる所ですが、実践を重ねる事が不可欠であると痛感しています。

研究室で身についた力 **論理的思考力** **課題発見力** **問題解決力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

マジックサークルの活動の一環に、地域交流といって地域の夏祭りや老人ホームなどいろいろな場所で、マジックを披露する機会がありました。人前で話す事に自信が無かった私は一挙手一投足が大切なマジックにおいて苦手意識がありました。その解決策は先輩の話方を真似ることでした。先輩の現場をよく見て、どう発言したら盛り上がるのか、またどのように観客を引き込むか観察を行い、自分に取り入れては、実践。その反応で確認し、改良を重ねました。その結果、最後には自信を持って人前で披露する事が出来るようになりました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

院進学に関しては「今しかできない事をやる」がモットーであり、自分の裁量で研究に取り組める機会は今しかないと感じたためです。また、学部の1年間は基礎知識を習得に留まってしまい、ここで研究を終えるにはもったいないと思いました。有難い事に親からの経済的支援に加え、学部時代の学業成績により給付された奨学金を得て、院進すること

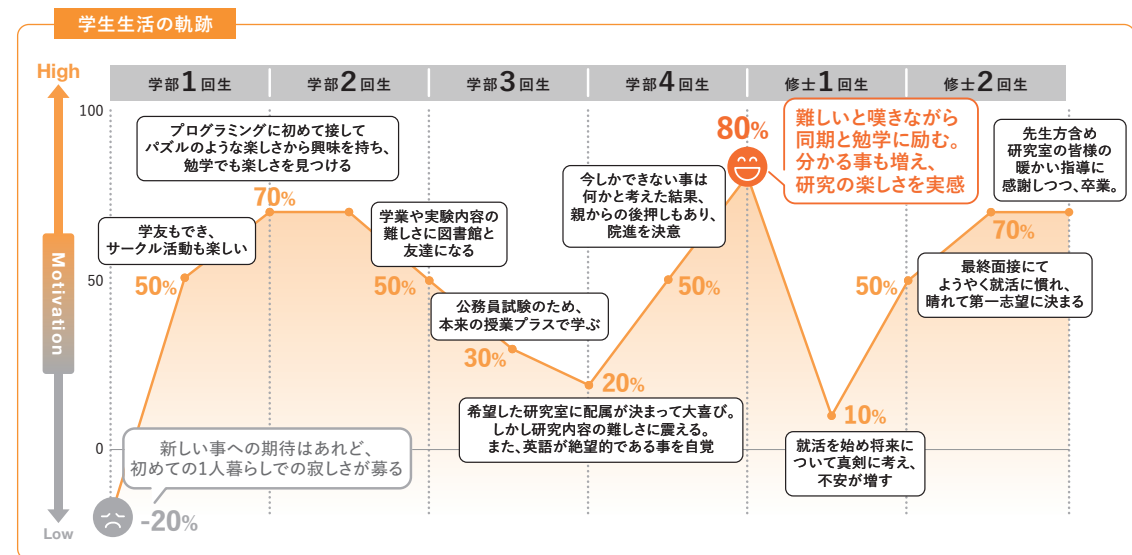
が出来ました。院進か就職か、選択肢を広げるためにも、日々の勉学の重要性を改めて痛感しました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

大学ではよく「答えが無い問題」に取り組むことが多いと言われますが、研究室ではさらに、「自ら問題を発見する力」が求められると感じました。課題発見力はふとした疑問を逃さない事が重要だと思います。また、課題に対する仮説や解法を考える際には「論理的思考力」を、課題に対してどう取り組むかという点では「問題解決力」を、身につけていったと感じています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

現在は、家庭向け医療機器の製造の会社にて、組み込みソフトウェアの開発や、アルゴリズム開発の仕事を行っています。医療機器の製造は規約が厳しいですがクリア出来るような試験を行ったり、新しい手法の考えるアルゴリズムの開発などを行っています。



研究で培った姿勢を、社会の仕組みづくりへ

06



正課授業・研究室生活

第一志望の研究室に入ることを目標に、正課の講義は全力で臨みました。気が緩まないよう、席は常に最前列へ。「講義中に一つでも多くの知識を吸収する」と決め、自分なりの緊張感を保ちました。
また、難解な箇所は友人と教え合うことでアウトプットを図り、知識を定着させました。当たり前のことを徹底した結果、納得のいく成績を残すことができ、無事に第一志望の研究室に配属されました。
この経験は、研究室生活のみならず、社会人として働いている現在でも、困難に直面し続ける私を常に前へと押し出してくれる存在です。

卒業生
2020年3月 学部・生命医科学科卒業
タンパク質修飾生物学研究室
梅津 太紀 さん

お勤め先企業の業種と職種： 国家公務員総合職(科学技術関係)

研究室で身についた力 問題解決力 計画力 論理的思考力

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

時間のある学生時代だからこそ、困難な挑戦を自らに課しました。1回生の夏、下宿先の滋賀県草津市から実家のある茨城県まで、総距離600kmの自転車帰省を敢行しました。素人の私には無謀とも言える挑戦でしたが、これを「自己鍛錬の好機」と捉え、ひたすらにペダルを回し続けました。1週間かけて完走したこの経験は、あえて高い目標を掲げ、その達成に向けて自身を律するという、私の行動指針の原点となっています。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

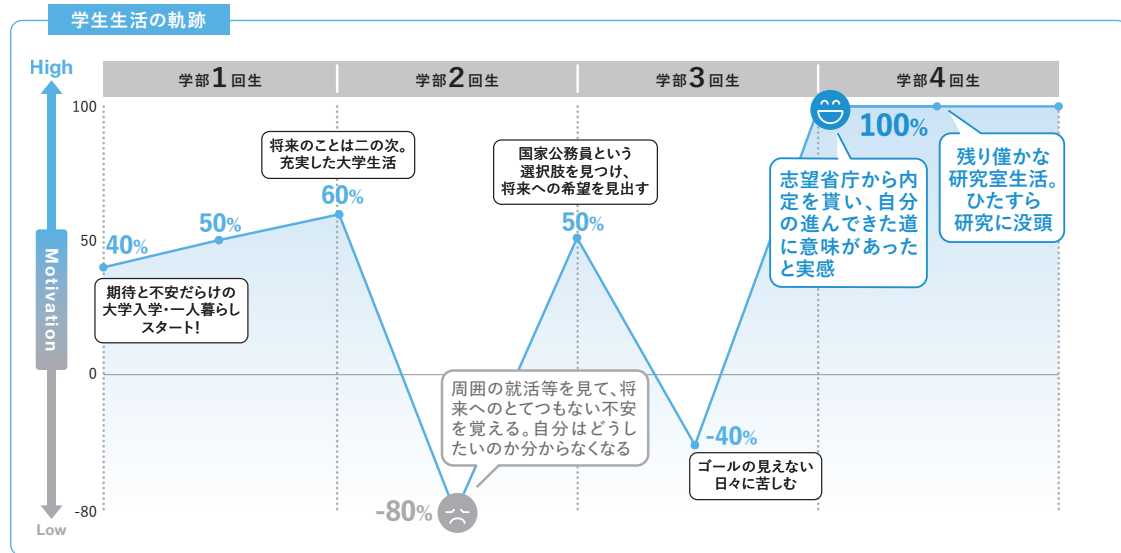
「学んだことを社会の役に立てたい」。当初はそう考え、研究職やアカデミアの道を志していました。転機は、3回生で偶然参加した、学内で開かれていた公務員志望者向けの説明会です。「理系の知識を活かして、一企業とは桁違いの規模で予算やリソースを動かし、日本の生活を豊かにする」国家公務員という選択肢は、私の視野を一気に広げました。また、研究室では雑務や資金・設備・支援体制不足に苦しむ先生方の姿を目の当たりにしました。「資源が乏しい日本は、科学技術の力で成長していくしかない」、「そのためには、日本の研究者が研究に没頭できる環境を作る必要がある」。そう痛感したとき、構造的な課題を根本から解決できる行政官の仕事に、強い使命感を抱くようになりました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

特に身に着いたと実感しているのは問題解決力です。研究が本格化したのは就活後であり、大学院までは研究したいと考えていた自分にとっては短すぎる時間でした。「時間がない」という制約の中で、私は徹底的な効率化を図りました。実験結果を予測して次の準備を先行させるなど、一分一秒を惜しんで手を動かしました。失敗や空回りもありましたが、研究活動への強い憧れと、「この分野を少しでも前に進めたい」という執念で最後まで走り切り、納得のいく成果をあげることができました。困難な目標に対し、制約の中で最善を尽くして挑み続ける。この姿勢は、複雑な行政課題に向き合う現在の私にとって、確かな指針となっています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

日本の中枢で、「科学技術」を通じてこれからの日本を盛り上げていくため、日々政策を練っています。
政策立案の現場では、大学生生活や研究室でのふとした気づき・経験が活かされていると感じています。
霞が関の仕事は、ひとつひとつの意思決定が世の中に絶大な影響を与えるため、プレッシャーはありますが、ここでしか得られないやりがいがあります。



『面白い』を原動力に、試行錯誤を楽しむ研究

07



正課授業・研究室生活

研究室では、荷電π電子系の合成研究やその集合体の化学、さまざまな物性測定を通じて、未知の科学現象にどう向き合うかを学びました。研究はしばしば回り道の連続で、成果にたどり着くまでには非常に多くの時間と労力が必要でした。それでも粘り強く取り組むことができたのは、研究指針を固めたときに、「これが具現化したら絶対に面白い。できないとやめられない」と強く思えたからです。そのワクワク感や期待感が、困難なときの原動力になっていたと感じています。今後も、独自の仮説やアイデアを積極的に盛り込みながら、失敗を恐れずに試行錯誤を続けることで、自分らしい化学を楽しんでいきたいと思っています。

修了生
2023年3月 博士・生命科学専攻修了
超分子創製化学研究室
田中 宏樹 さん

お勤め先企業の業種と職種： 製造業(機能性材料)・研究開発職

研究室で身についた力 課題発見力 問題解決力 コミュニケーション力

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

私が課外活動で力を入れたのは、アメリカへの留学です。到着直後は、自分の英語が通じず、言いたいことを伝えられないもどかしさを強く感じました。さらに、猫アレルギーがあるにも関わらずホスト先では猫が飼われており、体調面でもストレスの多い環境でした。そこで私は、困難から逃げず、一つずつ向き合うことを意識しました。英語については、毎日必ず現地の人と会話する機会をつくり、表現や言い回しを徹底的に真似することで、徐々にコミュニケーションへの不安を克服しました。アレルギーに関しても、ホストファミリーに率直に相談し、部屋の分け方や掃除の頻度を一緒に工夫することで、生活環境を改善しました。こうした試行錯誤を通じて、新しい環境でも主体的に動けば乗り越えられる自信を得ることができました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

私は、自分の手で研究テーマを切り拓き、推進していく力を身に付けたいと考え、博士進学を選びました。とくに、自ら課題を見つけ、仮説を立てて検証し、その成果を社会に発信する一連のプロセスをやりきれるようになるには、博士進学が不可欠だと感じていました。また、その過程で

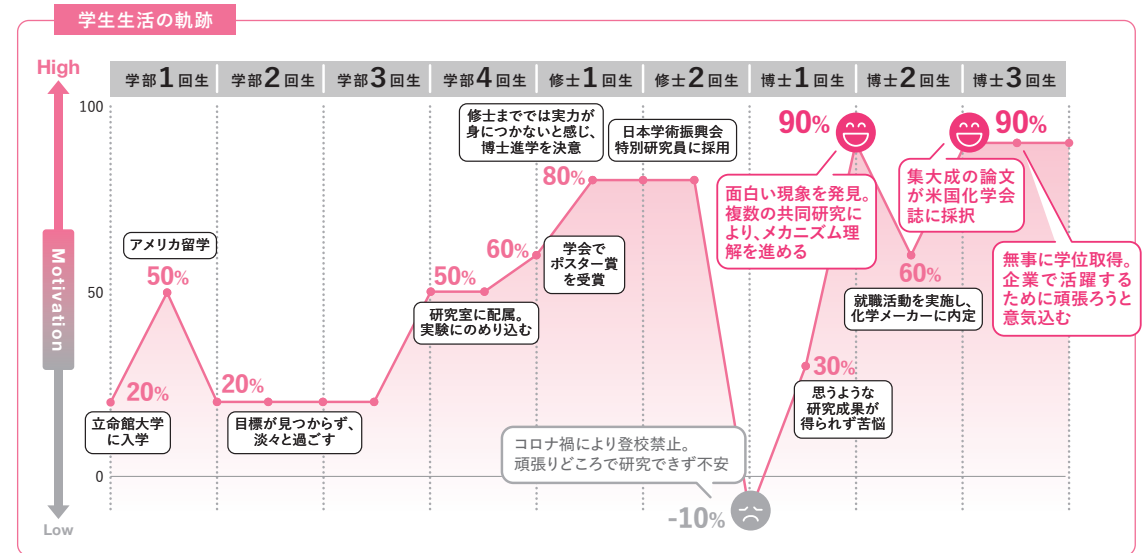
経験する試行錯誤や失敗を含めて、「博士課程での時間は必ず自分を成長させてくれる」という、確信に近い期待もありました。大多数が選ぶ進路からあえて外れることに不安はありましたが、その分、自分にしかない価値や強みを築けるのではないかと考え、最終的に博士進学というキャリアを選びました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

複数分野の先生方との共同研究を経験し、異なる専門性や視点を持つ先生とコミュニケーションを取りながら、課題解決に取り組みました。相手の関心や強みをふまえて提案を行い、周囲を巻き込みながら研究を進めた経験は、現在の業務でも活かされています。また、後輩の研究テーマに関与した経験は、自身の大きな成長の機会となりました。相手の理解度に合わせて専門的な内容を噛み砕いて伝える力に加え、議論の論点を整理し、次のアクションに結びつける力を身につけることができました。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

ディスプレイ材料の研究開発を行っています。顧客の将来ニーズから次世代材料の要求特性を読み解き、材料設計・開発を行うことが主な業務です。



世界に触れる経験が、成長の原点になった

08



2025年度M2
応用化学コース 有機材料化学研究室
澤田 瑞穂 さん

内定先企業の業種：消費財化学メーカー・研究開発職
課外活動：バレーボールサークル

正課授業・研究室生活

研究室生活では、研究活動・課外活動・就職活動の両立に力を入れました。特に4年生での短期留学や、修士課程での国際学会参加は大きな挑戦でした。どれも諦めたくなかったため、発表までの大まかな予定と目標を立て、週ごとにやることを整理する習慣を身につけました。研究の待ち時間を就職活動に充てるなど、時間を有効に使う工夫もしました。結果として、研究で目標の成果を得ながら、留学で視野を広げ、国際学会で経験を積み、就職活動も計画的に進めることができました。困難に直面した際は、優先順位を明確にし、柔軟に対応することが重要だと学びました。

研究室で身についた力 **主体性** **計画力** **コミュニケーション力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

学部時代、興味を持っていた海外留学に挑戦しました。夏休みを利用して、全学留学プログラムでカナダのサイモンフレイザー大学に4週間、理工学部主催でインド工科大学ハイデラバード校に10日間参加しました。異なる分野の話題や予想外の質問に対応できず悔しい思いをしました。そこで、レストランのアルバイトで積極的に海外のお客様を担当しました。英語に慣れることから始め、「話してみる」ことを意識しました。少ない語彙でも言いたいことを伝えられるようになり、コミュニケーションへの自信ができました。この経験を活かし、修士課程では国際学会にも参加できました。短期留学でしたが、英語への抵抗がなくなり、挑戦する姿勢の大切さを学んだ良い経験でした。

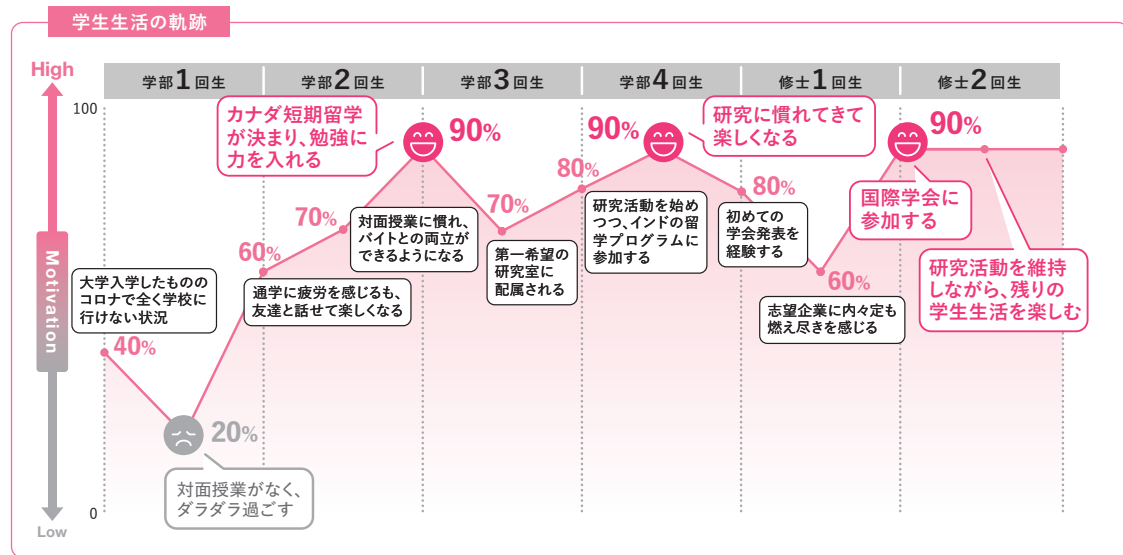
キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

入学当初から修士課程への進学は漠然と考えていました。研究室配属後、企業に研究開発職として入るためには大学院卒である方がよいということから大学院進学を決意しました。レストランでのアルバイトの経験

から、多くの人の毎日に少しでも笑顔を与えることができる商品の研究開発に取り組みたいと考えようになりました。化学・食品・消費財業界などの説明会やインターンシップを通して、毎日使用する商品を扱っている消費財メーカーに興味を持ちました。消費者を一番に考え、数多くの商品を提供していることに魅力を感じ、企業選択の決め手となりました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究は自分で進めていくことが必須でした。先生や先輩方に質問する機会が多くあったため主体性とコミュニケーション力が身につきました。当初は自分が何をすべきなのか理解していき、言われたことをそのまま行っていました。しかし、それだけでは自分の研究にはならず理解も深まらないことに気づきました。そこで、自分の考えをもたうえて質問することを意識しました。今でも教えてもらうことが多くありますが、何が必要なのかを理解しながら研究を進めています。また、研究活動・課外活動・就職活動を同時に進めていく必要があったため計画性も得られたと思います。



異なるアプローチをつなぐ研究に挑んで

09



修了生
2018年3月 修士・生命情報学コース修了
組織機能解析学研究室
渡辺 理紗 さん

お勤め先企業の業種と職種：医療機器メーカーの開発職
課外活動：軽音楽サークル

正課授業・研究室生活

研究室では、薬の投与前後の活動電位波形の変化を再現するシミュレーションモデルを作成していました。モデルが実際の波形変化を再現できているかを確認するため、モルモットの心臓を用いて実験を行っていました。研究室で唯一ウェットとドライの両方を含む研究であったため、両実験に必要な技術を身につける必要があり、その点は苦勞しました。動物実験に必要な技術については経験を積みしかありませんでしたが、シミュレーションモデルの作成には、先生や同研究室の先輩・同期・後輩の手を借りることで、なるべく最短ルートで問題解決できるように努めていました。勿論自分で考えることが一番大事ですが、自分のみで解決できない問題を長期にわたって抱えることも良くないので、その塩梅を見極めつつ行っていました。

研究室で身についた力 **論理的思考力** **コミュニケーション力** **問題解決力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

学部生の4年間はサークル活動に力を入れていました。私は軽音楽サークルでフルートを演奏していたのですが、当時軽音楽サークルにおけるフルートの活躍の場は少なく、どのようにすれば活躍の場を増やせるかと試行錯誤していました。自身で新たなジャンルを切り開くこと、多くのメンバーとのコミュニケーションを意識してやっていくことで活躍できる場を増やしていくことができ、最終的に目標としていた舞台に立つことも出来ました。また、サークルでは役職についてもいたので、大人数を抱えるサークルの運営に携わることで、リーダーシップのようなものも身についたように思います。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

元より医療関係の技術職希望であったため、大学院へ進学することは初めから決めていました。就活を始めるまでは、ざっくりと"医療関係"としか考えていませんでしたが、研究室でカテーテルを使用してから、本格的に医療機器に興味を持ち始めました。また、同研究室の先輩方の中に医療機器の研究開発職に就職した方が多くいらっしゃったのも、大きな影響を受けました。就活の中で現在の職場に2週間ほどインターンに行ったのですが、その時に出会った開発の方々の仕事の姿勢や社内の雰囲気良かったこと

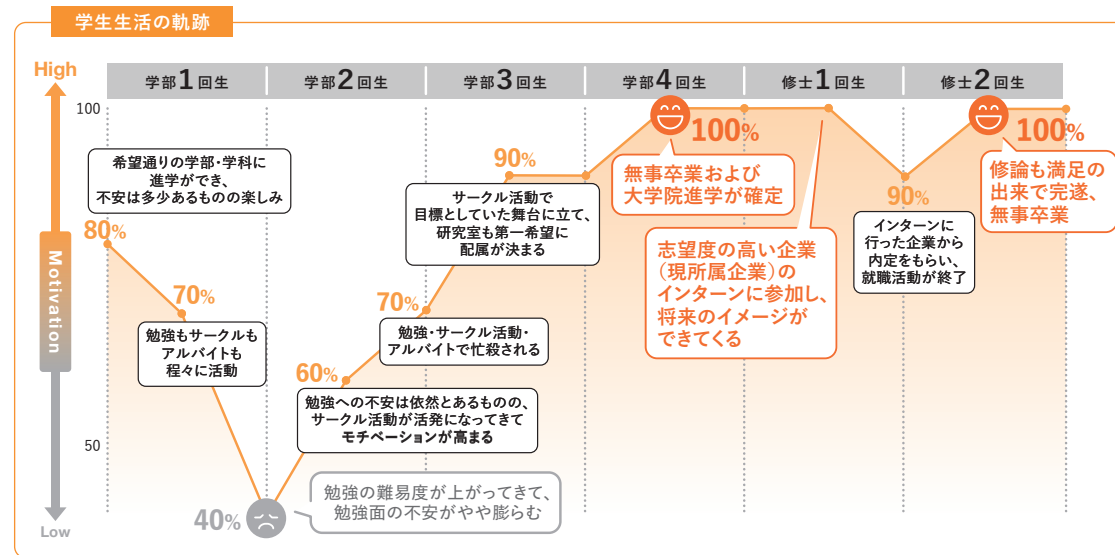
も企業選択に大きな影響を与えました。これから定年までこの会社で働くかもしれないと考えた時に、その未来が想像できる企業かを考えていました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究の段階では論理的思考力・問題解決力が大きく成長し、卒論・修論発表ではコミュニケーション力が大きく成長したと感じています。卒論・修論発表は、所属の研究室だけではなく他の研究室と合同で行っていたため、全くその分野に触れていない人でも理解できる発表にする必要がありました。研究室内で、繰り返し発表練習会を行い、「中学生でも理解できる発表になっているか?」という観点で討議していました。この観点は社会人になっても、適切なコミュニケーションをとるうえで必要な能力であったと感じています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

現在は内視鏡と組み合わせて使用する"処置具"と呼ばれる医療機器の開発を行っています。開発は、機器の設計、性能評価、世に出すための法申請など、製品開発の最初から最後まで一通り実施する業務です。製品開発は、社内の人間だけでなく、様々な医療従事者にご協力いただき進めています。



主体的な選択を重ねて広がった研究の世界

10



2025年度D1
生命科学専攻 生物計算研究室
高坂 仁 さん

内定先企業の業種：研究職(研究機関または大学)
課外活動：生命科学部自治会、生命科学・薬学 若手の会

正課授業・研究室生活

研究生活で最も力を入れたのは、研究の核となるAI実装技術の習得です。私が研究室に配属された当時は、現在のようにAIツールを活用した学習環境が整っておらず、研究室も新設されたばかりで先輩の知見もほとんどありませんでした。専門書を頼りに独学で学び、習得したばかりのプログラミング言語を使って試行錯誤を繰り返す日々は、研究の面白さと同時に強い閉塞感も伴うものでした。転機となったのは、指導教官の勧めで参加した「生物物理若手の会 夏の学校」での経験です。他大学の先輩が、私の研究内容を踏まえてAI画像解析手法を徹夜で丁寧に教えてくださり、一気に研究が前進しました。自分一人では越えられなかった壁を、学術コミュニティの力が後押ししてくれた瞬間でした。この経験を通して、研究者として必要なのは技術力だけでなく、互いに支え合い知を共有する姿勢であると強く実感しました。以降は、自身の研究を深めながらコミュニティの一員としてサイエンスを進めを進めることを目指すという、進路の方向性が明確になりました。

研究室で身についた力 **自己表現力** **主体性** **計画力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

大学生活の中で、自分の判断力と行動力を試すために、ママチャリで四国一周するという挑戦を設定しました。滋賀から尾道を経てしまなみ海道を渡り、四国四県を真夏の15日間、野宿を繰り返しながら走破しました。四国の県境は山岳地帯が続き、次の街まで数日かかることもあるため、走行距離・食事のタイミング・補給地点といった計画を自分で立て、状況に応じて調整しながら進む必要がありました。最も苦労したのは、高知南部の海沿いで台風の進路とルートが一致した場面です。強風と豪雨で視界が奪われる中、地図や風向きを確認し、安全に避難できる区間まで移動するか、停止するかを判断する必要がありました。危険を避けるながら前進するため、海側との距離を保ち、スピードを落とし、崖側に寄って走行するなど、状況に応じて判断を重ねて乗り切りました。台風一過の朝日に包まれた桂浜のあの瞬間は、今でも忘れられません。この経験を通じて、限られた環境下でも自ら考え、優先順位をつけ、行動を決める「主体的な判断力」を体得しました。

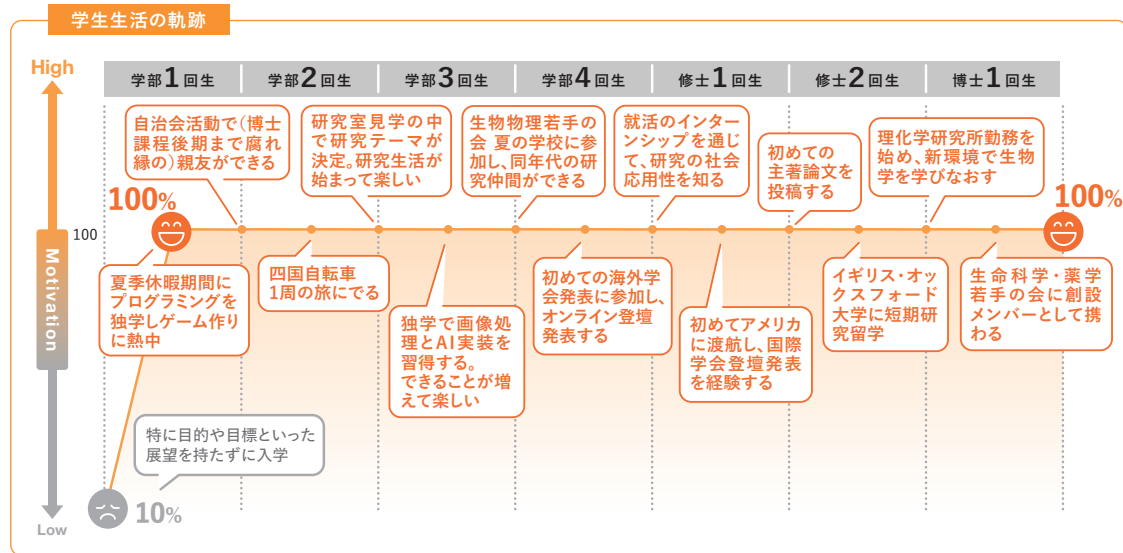
キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

私のキャリア選択には、「やりたいことをとことん突き詰めた」という研究者気質と、それを受け止めてくれる環境との相性が大きく影響してきました。もともと医療診断に役立つ技術開発に興味があり、学部時代はその方向性で研究室を探していました。ちょうどその時、新たに着任された現在の指導教官から「細胞画像解析をAIで実装する研究テーマがある」と紹介を受け、より複雑で奥行きのある細胞スケールの研究に携わることで、自分の将来の幅を広げられるのではないかと感じました。

実際に研究を進める中で、AIの抱える説明不可能性の課題や、モデルそのものを理解しようとする基礎研究の奥深さに惹かれ、気づけば生物物理の世界に強く興味を持つようになっていました。私は関心の多い性格ですが、その変化を否定するのではなく、常に新しい選択肢を提示し、挑戦を後押ししてくれた大学と指導教官の懐の深さには、今も深い感謝を抱えています。こうした環境との出会いと体験こそが、私の進路の大きな指針となっています。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

海外での学会発表や留学は研究者にとって一つの目標であり、私も強い憧れを抱いていました。学部4回生の台湾研究会での初発表を皮切りに、これまでに2件の研究留学と4件の国際発表を経験しています。これらを実現できた背景には、自ら研究計画を立てて機会を掴みにいく主体性と、それを形にするための計画力があります。特に留学では、受け入れ先の研究者との交渉、テーマの調整、滞在計画の策定まで、すべて自分で動く必要がありました。限られた期間で成果を出すために、論文調査と実験計画を細かく設計し、現地では毎日のディスカッションを通じて研究を加速させました。また、私の専門は生物学・物理学・情報学が交わる学際領域であり、異なるバックグラウンドの研究者と議論するには、初学者にも伝わる説明力と、専門家と深く議論できる知識の双方が求められます。国際発表や研究交流の場では、資料の構成、言語化の精度、質問対応の仕方を徹底的に磨きました。この継続的な試行錯誤が、自己表現力の向上につながったと実感しています。これらの経験を通じて、私は主体的に機会をつかみ、計画的に成果へと結びつけ、異分野の研究者に自分の研究を確実に伝える力を身につけることができました。



地道な積み重ねが、進路を切り拓いた

11



卒業生
2022年3月 学部・生命医科学科卒業
タンパク質修飾生物学研究室
井上 文美 さん

お勤め先企業の業種と職種：IT・SE
課外活動：アルバイト・資格取得

正課授業・研究室生活

正課授業では実験の授業とレポートの作成に力を入れて取り組みました。生命科学の実験はタンパク質やDNA、微生物などの生き物を扱うため、いつでも同じ結果を得られるわけではありません。そのため班ごとに異なる結果となることもあり、実験が終了する度に友人と図書館に行って文献を読みながらそれぞれの結果について議論をしていました。実験レポートの作成で培われる、結果から考察を論理に飛躍がないようにまとめる力は、社会人となった今でも生きています。

研究室で身についた力 **計画力** **論理的思考力** **コミュニケーション力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

課外活動では資格の取得に力を入れて取り組みました。何か胸を張って頑張ったといえるものが欲しかったからです。取得までにかけた時間と労力の投資が「合格」という見える形で返ってくるため、いくつか取得するうちに自然と自信が付いたように思います。とはいえ、正課外の限られた時間の中で合格に向けて学習に取組み続けることは容易ではありませんでした。試験に向けて学習計画を立て、弱点を見つけて克服し、演習を繰り返すという地道な努力を積み重ねるうちにコツコツと取り組む持久力がついたと感じています。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

生命科学部の正課で専門的な授業内容に触れるうちに、専門職や技術職に就きたいと漠然と思い描いていました。ところが私が就活生となった年はコロナ渦真っ只中で就職氷河期の到来が囁かれていました。ライフサイエンス系の業界や専門職はもともと人気があり採用人数も限られているうえ、コロナ渦による経済停滞によってさらに倍率が例年よりも高くなる噂されていました。自分の理想と現実とが相反してしまい、現状を鑑みれば技術職は諦めざるを得ないのかとキャリアセンターに相談したところ、IT業界のSEなら私の思う理想像に近いので

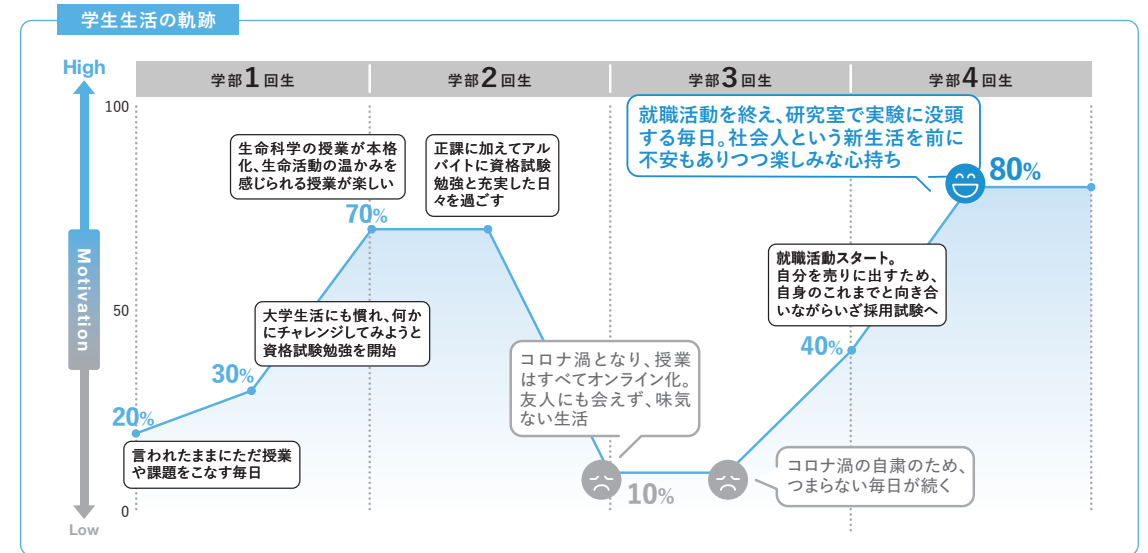
はとご助言をいただきました。そうして採用人数も比較的多いIT業界を視野に入れて就職活動を行った結果、無事SEとして採用していただきました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究室は教授や先輩、同期が同じテーマを共有し各々の役割に取組むという点で会社に似ています。研究テーマはそれぞれ異なるけれど、やはり一人の力だけでは進められないのが卒業研究だと思います。時に研究室の先輩にご指導いただき、時に同期に頼り頼りながら卒業研究を進めた経験により社会人に必要なコミュニケーション力が身についたと思います。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

現在は企業の情報セキュリティ運用に携わっています。情報セキュリティインシデントが発生しないよう事前に防御することが私の仕事です。情報セキュリティを確保するためには日々進化する情報技術関連のニュースに常にアンテナを張り、自身に足りない知識を補充し続ける必要があります。大学生活の中で身についた情報収集力を仕事に活かし、日々精進していきたいと思っています。



研究を「設計する」視点を身につけて

12



2025年度M2
生命医科学コース 病態生理代謝学研究室
遠田 彰良 さん
内定先企業の業種：製造業(化学、医薬品)
課外活動：合唱サークル、ダンスサークル

正課授業・研究室生活

【研究室配属前】やりたいことはやる!できる限り単位を落とさない!サークル活動やアルバイトなど、やりたいことばかり優先してしまいがちでしたが、最低限出席はする、どんなに低クオリティでも課題提出はする等して、単位取得を完全に諦めることはしないよう心掛けていました。学部の成績は後の研究室配属にも影響します。当時そのことを意識していた訳ではありませんが、結果として希望通りの研究室に配属されたので、頑張っていた良かったと思います。
【研究室配属後】自ら決断し、行動する!もともと自分の意思が弱いので、最初は上手くいきませんでした。学部4回生の11月頃、期待する実験結果が得られず、実験失敗への不安もあって足踏みしがちになっていたところ、教授から進捗が遅いと指摘されてしまいました。そこからなんとか頑張ろうと思い、周りの人にも相談して、本当にありがたいことにたくさん助言をいただきました。しかし、助言はもらえても、代わりにやってくれる訳ではありません。最後は自分で決断し、行動に移さないと何も進まない、ということを感じてからは、色んな可能性や選択肢の中から自分で選び取って、「私はこうしたい」と意識的に表現するようになりました。様々な検討を重ね、それでも良い結果は得られませんでした。自分の意思で研究テーマを変更すると決断し、新たに考案したテーマを修論としてまとめ上げることができました。

研究室で身についた力 **主体性** **論理的思考力** **コミュニケーション力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

合唱サークルの活動の一環で、関西6大学が所属する合唱連盟における理事長として、合同演奏会の再開に取り組まれました。私が理事長に就任した際、毎年開催していた演奏会の対面での開催が、コロナ禍によって2年間で中止になっていました。再開にあたって、高い参加費のために、参加人数が少ないことが問題になりました。そこで、参加費の削減目標を決め、演奏会予算を見直すことにしました。その際、3つに分かれた委員会同士の意見交換を促し、異なる立場からの意見を取り入れることで、効果的に予算を削減することができました。結果、目標を達成し、100名以上が参加する合同演奏会を対面で開催することができました。

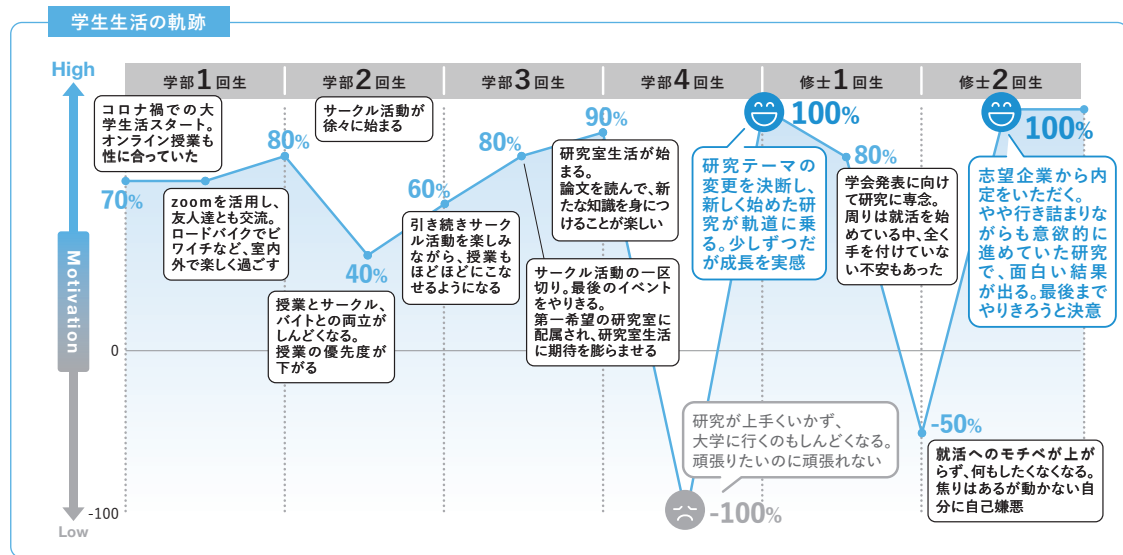
キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

研究室で特定分野を集中的に学び、研究成果として新たな発見を生み出すには、学部4回生の1年間だけでは足りないだろうと考え、大学院進学を決めました。友人も進学すると決めていたことや家族も後押ししてくれたことなど、環境的に院進学に障害がなかったことも大きかったです。就職活動では、選考の早期化が進む中、1月まで研究に専念し、2月になってもモチベーションが上がらず、結局本腰を入れ始めたのは2月後半になってからでした。きっかけは、みかねた友人が私のESと一緒に考え、スタートを切らせてくれたことです。本当に周りに恵まれていると感じ

ました。研究を始める前は、なんとなく研究職に就くのかなと想像していました。しかし、就活までに実際に2年間ほど研究をしてみて、自分の手で物事を明らかにしていくのも楽しいのですが、それ以上に、論文から新しい知見を得たり、他の人の実験結果を考察したりする方が楽しいことに気がついたことから、研究職以外の職種にも目を向けられるようになりました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

実際に研究を行うまでは、思いつくままに実験を繰り返していれば、いつかは新たな発見が見つかる、それが研究の魅力の一つのかなと思っていました。しかし、それには膨大な資源と時間が必要なことに気がつきませんでした。研究室では限りある資源と時間の中で成果を出さなければなりません。そのためには、主体的に研究に取り組み、分からないことは周囲の力も借りながら、自分は何を明らかにしたいのか、そのためにはどんな実験をすれば良いのかを順序立てて考え、他人に納得してもらえようとして論理的にかつ自分の言葉で説明しなければなりません。また、自分の研究だけでなく、他の人の研究テーマについても考え、実験結果や今後の展望について議論する機会も多くあります。そのような生活の中で、「主体性」「論理的思考力」「コミュニケーション力」が自然と身についたと感じています。



言葉と生活の壁を越えて築いた自信

13



2025年度M2
応用化学コース 有機材料化学研究室
LYU Jiashen(ロカシン) さん
内定先企業の業種：製造業(化学品、樹脂等)

正課授業・研究室生活

私は留学生で、大学に入学する前に日本語を2年間学び、日本語能力試験N1を取得していました。しかし、実際に大学に通い始めたら、特に身の回りの関西出身の若者たちと日常的に接する中で、教科書にない方言や表現が多く、初めのうちは会話についていけず、何度も相手に話を繰り返してもらうことがありました。最初は、言語の壁に大きな挫折感を感じましたが、そのまま諦めることはせず、努力を続けることを決意しました。特にコロナ禍により授業がオンデマンド形式で行われたことが幸いし、時間に余裕を持って録画された授業を繰り返し視聴し、聞き取り能力を高めました。さらに、対面のチャンスがある時、積極的に会話を試し、理解を深める努力を続けました。このような積み重ねの結果、4年生で研究室に配属された際には、まだ未熟な部分はありましたが、研究室のメンバーと円滑にコミュニケーションを取れ、先輩と先生方に褒めていただけるまでになりました。

研究室で身についた力 **コミュニケーション力** **主体性** **問題解決力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

コロナ禍で、アルバイトもサークルもできず、学部生活は終わりました。2年生のころ、慣れない一人暮らしで食生活と睡眠が乱れ、体調を崩した経験があります。それ以来、健康な生活のために、減量と生活リズムの調整を決意し、食事の改善から始めました。栄養バランスを考えながら、自分の代謝に適した摂取量を計算し、毎日の食事内容を記録することで、摂取量を管理しました。並行して、自分を早寝早起きさせるために、週に4回以上朝6時からの有酸素運動も取り入れました。停滞期に入っても、諦めることなく食事の見直しや運動の強度を変え、計画を再調整しました。結果、2年で30kgの減量し、健康でエネルギーの高い生活リズムを達成しました。

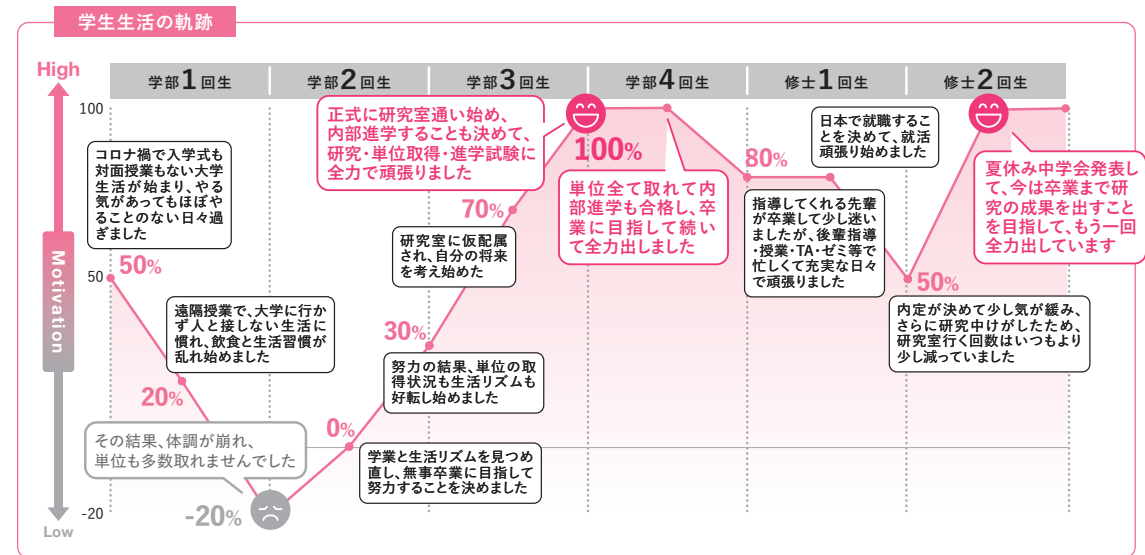
キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

4回生で研究室配属されたころ、先輩と教授は非常に優しく接していたので、自分の研究テーマと研究室の雰囲気も想像以上満足していたので、内部進学することを決めました。

就活始めた時、それまでの研究室生活をまとめて、自分は営業より技術者として活躍できると判断して、特にものづくりの仕事にはやりがいを感じますので、全て化学製造業の研究職を応募して、今の内定を決めました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

学部生のころはほぼ先輩の指示に従って研究してきましたが、院生になった時、指導してくれる先輩が卒業した。特に自分の研究は、新規性が高く前例が少ないテーマに携わりましたので、次どうすればいいか分からなくなりました。そこで、液晶・光学・有機合成等各分野に詳しい先輩や先生方からアドバイスを多く伺い、意見交換を重ねながら課題を一つ一つ解決し、研究を進展させました。この経験で、異なる専門知識を取り入れられるような問題解決力と、周囲を巻き込むコミュニケーション能力も身に付けました。



学びの現場から見た、社会を支える仕事

14



卒業生

2022年3月 学部・生命情報学科卒業
生物計算研究室
杉山 愛唯 さん

お勤め先企業の業種と職種：情報系(電力システム)・設計職
課外活動：オリター団

正課授業・研究室生活

3回生から4回生にかけて、正課授業を中心とした学生生活をどのように成り立たせるかを意識して過ごしていました。片道約3時間の通学という環境もあり、時間の使い方には常に工夫が必要でした。
サークル、バイト、正課授業を無理に続けようとする負担が大きくなると感じたため、自分にとって何が最も大切かを考え、優先順位をつけることを心がけました。優先度の一位は正課授業であるため、授業を軸に生活リズムを整え、限られた時間の中でも落ち着いて正課授業に向き合えるよう、計画的にスケジュールを立て、その上で無理のない範囲でサークルやバイトに向かうように自分の生活を見直しました。
このような学生生活を通して、自分の状況を客観的に捉え、無理のない形で物事に取り組む大切さを学びました。忙しい中でも、自分なりのペースを見つけて継続することが、この後続く研究生生活や就職活動を支えてくれたと感じています。

研究室で身についた力 主体性 コミュニケーション力 問題解決力

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

学生時代は、小学生向けプログラミング教室でのアルバイトに力を入れました。
立ち上げ間もない教室で、教材が分かりにくく生徒の集中力が続かないという課題がありました。そこで、宇宙や車など子どもが興味を持ちやすい題材を取り入れたオリジナル教材を作成しました。その結果、生徒の理解度や授業への集中力が向上し、積極的に学ぶ姿勢を引き出すことができました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

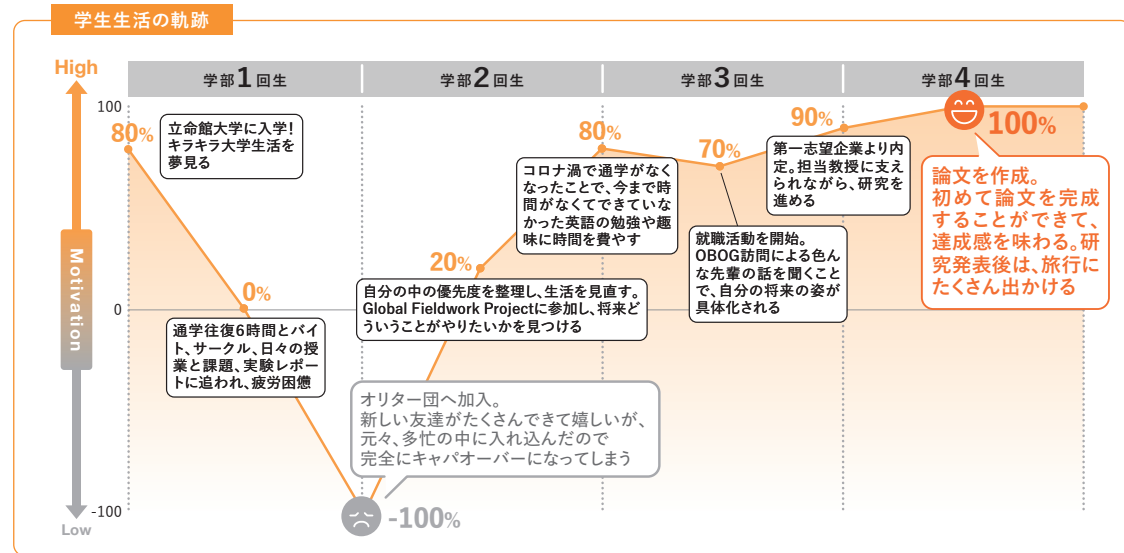
大学2年生の時に参加したGlobal fieldwork projectが、キャリア選択の大きなきっかけです。
現地の学生と交流する中で、生まれた国によって受けられる教育や生活環境に大きな差があることを実感しました。
この経験から、より多くの人が当たり前の生活を送れる社会を実現したいと考えるようになり、発展途上国の基盤づくりに貢献できるインフラ事業に関わる企業を志望し、就職活動を進めました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究活動において、仮説を立ててプログラムを作成し、シミュレーションを行っていました。試行錯誤を重ねる中で、自分の進めている方向やプログラムの正しさに自信が持てなくなることが何度もありました。その際、課題を放置せず、自ら担当教授にアポイントメントを取り、積極的に相談しました。助言をもとに方向性を修正しながら研究を進めた結果、主体的に課題を整理し、行動する力が身についたと感じています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

日本の電力システムの開発を行っています。電力は蓄えることができないため、需要と供給を一致させる必要があります。電力の需要を予想して、発電量を制御するシステムの開発を行っています。開発を担っている海外ベンダーと関わっていく上で自分の語学力がまだまだ足りないと思い、今後留学を予定しています。



自分にとことん向き合った大学生生活

15



卒業生

2025年3月 学部・生命医科学科卒業
生命医科学科 プロテオミクス研究室
橋本 真優 さん

お勤め先企業の業種と職種：化粧品メーカー
課外活動：ボランティアサークル

正課授業・研究室生活

3回生から4回生にかけて、授業と就活の両立が大変でした。就活は明確なゴールがないため、私の場合は就活の予定を詰め過ぎてしまい、日常生活に支障が出るまでになってしまいました。これをきっかけに、無理し過ぎず、ストレス発散方法を理解しておくことに加え、一度立ち止まって、自身の行動を振り返ることが重要だと感じました。
また、スプレッドシートやカレンダーを活用して課題やESの時切日をしっかりと把握することで、計画性を持って授業と就活を両立させることができました。

研究室で身についた力 課題発見力 計画力 論理的思考力

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

所属するボランティアサークルの活動に力を入れて取り組みました。私は、隊員に食事を提供する調理役員という役割も担いながら、琵琶湖清掃や阿蘇海環境保全など様々な活動に参加してきました。大規模な活動では、調理役員わずか5人で100人分の食事を作らなければならないため、2ヶ月以上前から発注や工程表の作成など綿密な準備を行いました。活動時に急なトラブルが生じた際は、他の役員と話し合いを行い、メニューを変更することで切り抜けることができました。
この経験を通して物事を計画的に遂行しつつ柔軟に対処する力を身につけました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

生命科学部のキャリア講演会で、院進された先輩が「研究が本当に好きでないと、院進するのはしんどい」とおっしゃっていたことがきっかけで、学部卒で文系就職することを意識し始めました。
自身が学生実験で、実験に対して苦手意識を感じていたため、2回生の2月に就職活動を始めて自身の好きなこと、得意なことを考えた際に学部卒で文系就職をしても、自身のやりたいことの実現可能性が高く、理系就職にこだわる必要はないと考えました。

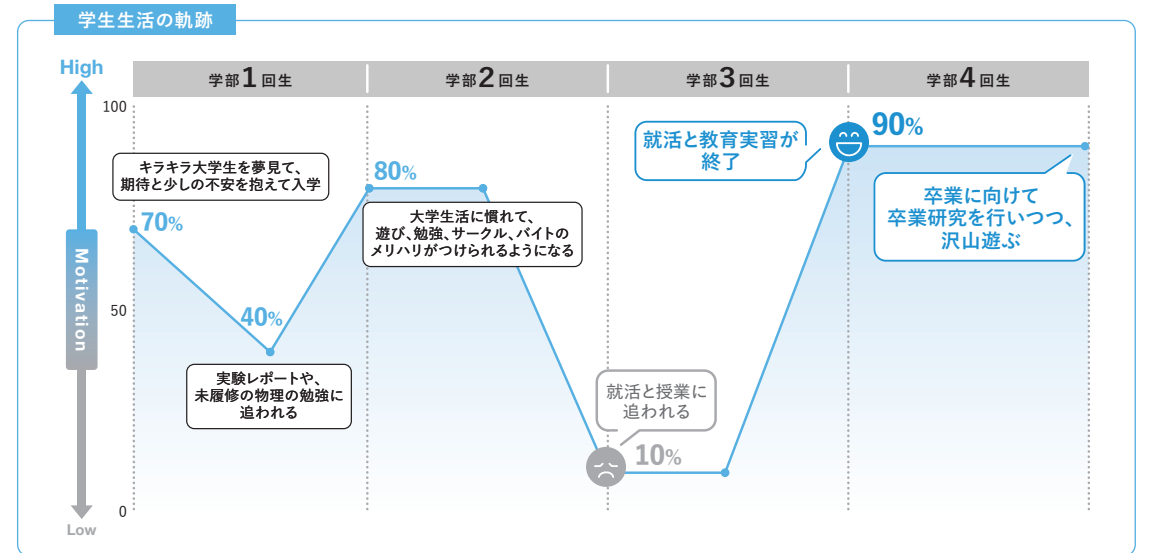
せっかく理系に進学したのに、文系就職してしまうのは勿体無いと考えたこともありましたが、大学4年間で養った計画性や論理的思考力は、理系だからこそ身につけられた力だと自負しています。
周囲の意見に左右されることもありましたが、自分にとって本当に正しい選択は何かを自身に問い続けることが重要だと思いました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

ゼミでの論文紹介や研究報告に加えて普段の実験でも、自分では考え付かなかった切り口からの質問やアドバイスを沢山いただくことができます。そのため、より効率的な実験方法や論文の調査方法を習得できている実感があります。これは課題発見力や論理的思考力を身につけていることにつながっていると考えています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

外部通販(Yahoo!ショッピング)で自社商品の販促を行っています。毎月行われるイベントやセールに向けて、商品を選定したり、施策を考えたりしています。毎月毎月販促を考えるため、スピード感を持って働いています。過去のデータや流行も加味する必要があるため、難しいことも多いですが日々楽しく仕事できています。



仕事で活かせる力が身につく学生生活

16



卒業生

2022年3月 学部・生物工学科卒業
応用分子微生物学研究室
寺部 千夏 さん

お勤め先企業の業種と職種：CRO 臨床開発職
課外活動：生命科学部オリター団

正課授業・研究室生活

研究室生活3回生～4回生にかけて、就職活動と研究生生活の両立が大変でした。その他にも、アルバイトや正課授業とのスケジュール調整も必要でした。内定を早く得たいという思いと、きちんと研究成果を出したいという思いからプレッシャーを感じていました。平日は研究生生活を中心に、休日・研究の空き時間は就職活動を中心に、スケジュールを組み立てました。1週間単位の短期的なプランと、数か月単位の長期的なプランを組み立て、達成しているか振り返り、随時プランを修正しました。結果的に計画通りのスケジュールで、就職活動と研究生生活を進めることができました。

研究室で身についた力 **コミュニケーション力** **問題解決力** **課題発見力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

生命科学部オリター団です。新入生に楽しい大学生活をスタートしてもらうためのオリエンテーション企画を、皆で1から作り上げるというとても貴重な体験でした。約2か月という限られた時間の中で、企画・制作・練習・報告と毎日大忙しでした。4月に見られる新入生の笑顔を見て思い浮かべながら、チームプレーで協力しあい乗り越えました。学生時代に、大人数で1つのものを作り上げたという経験は、今でも大きな自信となっています。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

治療薬が存在しない病で祖母を亡くした経験から、新薬の開発に携わりたいという強い希望がありました。就活時には、先輩方の就活体験記やOB・OG訪問から、多くの参考となる経験を伺うことができました。実際に今勤めている会社も、OB・OGから生の経験談を聞いたことがきっかけで、第一志望として入社しました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

はじめに、1年間で達成すべき大きな研究目標を設定し、その目標達成に向けて、週単位の短期的目標と月単位の長期的目標を都度設定し研

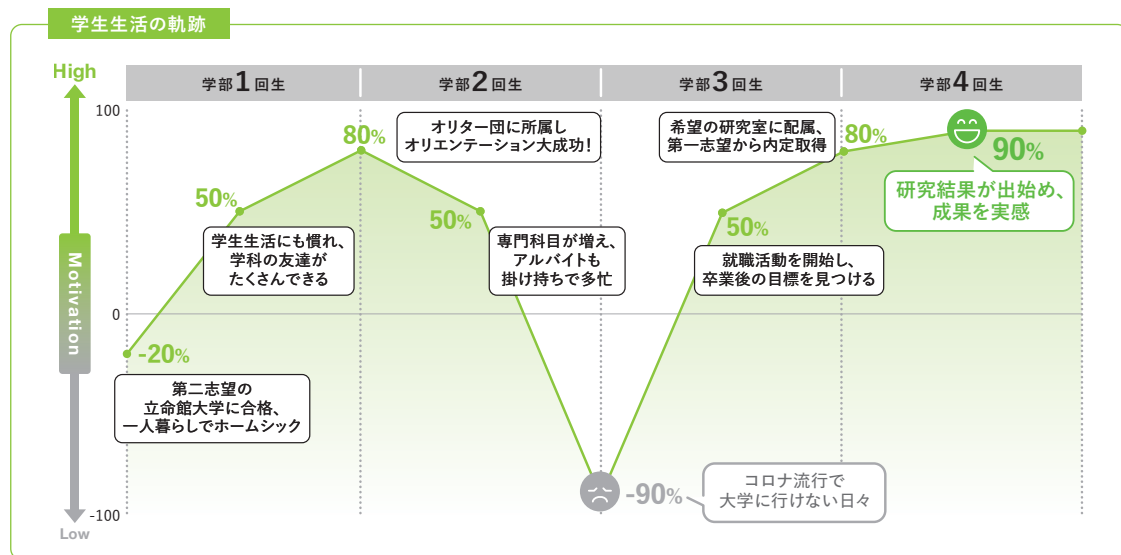
究に取り組みました。微生物を扱う研究であったため、温度や栄養条件などの生育環境の変化によって、結果が変わってしまうことが多々あり、計画通りに進まない難しさも経験しました。なぜその結果になったのか、なぜ求めている結果が得られないのか、なぜを繰り返して自分の研究を見直すきっかけとなり、現状の課題を自分で解釈し見つける力が身につきました。

座学の正課授業では生物・化学についての専門的知識が身につきますが、加えて課題発見力・問題解決力が身につくことも研究生生活の貴重な経験です。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

CRO(医薬品開発業務受託機関)業界でCRA(臨床開発モニター)として働いています。CROとは主に、製薬企業などから新薬の開発を受託して行う業界のことで、CRAとは臨床試験が計画通りに実施されているか監督・モニタリングする職種です。

新薬を皆さまへ届けるため、医師・薬剤師・看護師・製薬企業とともに、有効性や安全性のデータを集めています。



友人と好奇心に支えられながらの奮闘

17



修士生

2025年3月 修士・応用化学コース修了
応用化学コース 生命無機反応化学研究室
坂本 大芽 さん

お勤め先企業の業種と職種：化学メーカー(研究開発職)
課外活動：Rits BBS(ボランティアサークル、学部生時)、
課外自主活動団体助成制度の利用(1回生時のみ)

正課授業・研究室生活

研究室生活では自分で考えることを大切にしました。実験では予想通りの結果が得られる場合も、そうでない場合もありました。それぞれの結果に対して、原因を考え、実際に手を動かして検証することで理由を考察することができました。考えてもわからなかったことについては、友人や先生に相談することで視点を広げることができ、課題解決の選択肢を増やすことに繋がりました。実験の都合上、深夜に測定することや時間のない中で結果を集める必要があったことは大変でした。しかし、結果を明らかにしたいという好奇心が勝っていたので乗り越えることができました。また、声をかけたら研究室に来てくれる同期の友人がいたことも大きな支えとなりました。学会発表に至るまでは、結果の整理や英語への翻訳に苦労しましたが、発表の場で他大学の先生や学生と自分の研究を深める議論ができたことは非常に有意義で良い経験になりました。

研究室で身についた力 **主体性** **計画力** **問題解決力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

大学の課外活動に対する助成制度(15万円の助成金支給)を利用して、小学生向けのイベントを開催しました。一人ではできることも限られてしまうので、団体を立ち上げるところから始めました。行動力と大胆さだけはあったので、衣笠キャンパスのサークルに突然伺って協力をお願いしたり、学科の先輩に声をかけたりしてメンバーになっていただきました。今思えばかなり生意気で迷惑なので準備を十分にした上でアポを取ってから動くべきだと思っています。団体活動では、地域のお店を訪問しての協力依頼や企画内容の作成などを学業と両立する必要がありましたが、全くうまくできませんでした。しかし、メンバーの尽力のおかげで本番を迎えることができました。開催できた時の達成感、参加してくれた子どもや保護者の笑顔は本当に嬉しかったです。また、計画的に進めることへの反省は今に活かしています。アルバイトとしては個別指導塾で講師をしていました。いかに思い通りにいかないかということと教えることの難しさを痛感しました。うまくできたかはわかりませんが、多くの生徒と関わりさまざまなことを学びました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

昔から理科が好きで研究をしたいという気持ちがあった中で、企業に研究職として入るためには大学院卒である方が良いということで大学院進学をしました。外部院進についても考えましたが、理由が研究への意欲というより学歴だったため、同じテーマで研究を続けられる内部進学を選びました。就職活動の早期化もあったため、結果的に良かったと

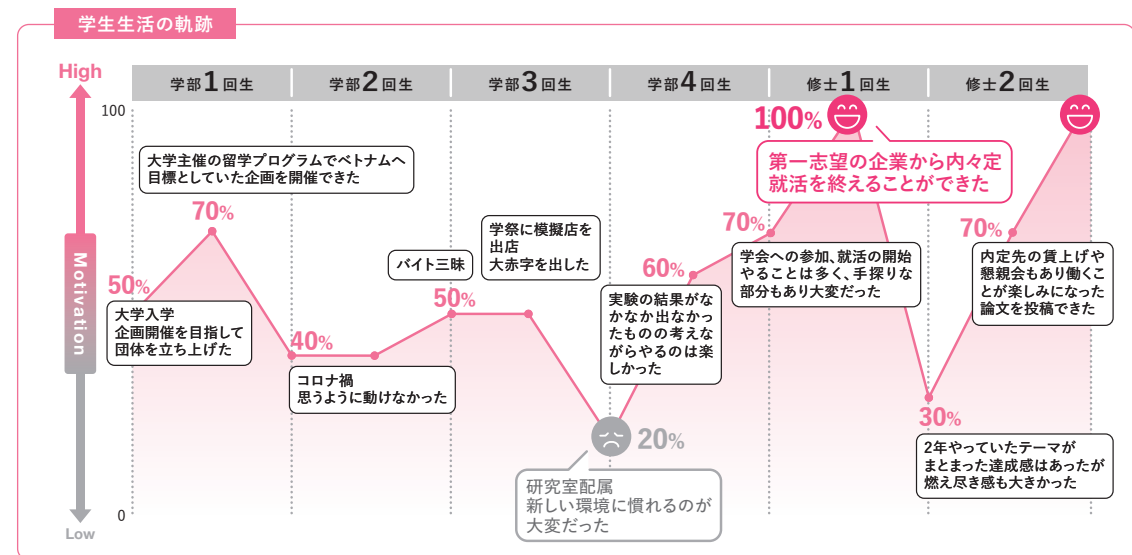
思っています。ありがたいですが、就職活動では友人や先輩、キャリアセンターを頼りながらやるのが最も重要だと思います。友人とはエントリーシートの内容を指摘し合うことや面接練習をすること以外に、良いことも嫌だったことも共有できたのでモチベーションを維持しながら塞ぎ込まずに就職活動を行うことができました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究は実験の条件検討から始まったため、スムーズに進めるためには計画を立てることが必須でした。ただ、思った通りに進むことはなかなかなかったため、その度に計画を修正し、どうしたら解決できるかを考えて動きました。待つのではなく、自分で考えて主体的に動いたことで力がついたと思います。自分の実験について、考察するために必要な実験を自分で考え、先生に相談して認められたときは嬉しかったです。楽なことばかりではありませんでしたが、好奇心を原動力に動き、実験をやりきったときはかなりの達成感を得られました。自分自身の性格として、物事をやっているうちにだんだんと好きになり、そして楽しくなり勝手に進んでいくような性格なので院進学は向いていたと思っています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

新規製品の開発に携わっています。業務内容は主に、製品の評価方法の確立に取り組んでいます。大学院で学んだ専門分野とは異なっていますが、専門分野や大学院生活を通じて学んだことは活かしていると思います。



課題と向き合い、挑戦を重ねた私の学生生活

18

修了生



2025年3月 修士・生命情報学コース修了
組織機能解析学研究室
堀野 未祐 さん

お勤め先企業の業種と職種：医療機器メーカー(ソフトウェア開発)
課外活動：天文サークル

正課授業・研究室生活

研究において誰が見ても分かりやすいシミュレーションモデルを構築することを目標に取り組みました。シミュレーションモデルの各要素がどのような働きをしているのかが分かりにくいという課題がありました。一度構築することができましたが納得できずさらに自主的に約8ヶ月間構築を続けました。その中で、1人で構築するよりも他の人に見てもらおうが目的のモデルに近づくと考え、プログラムを書き直したら教授に相談したり、研究室の違うグループの人や友達に見てもらいました。様々な人に見てもらおうことで視野を広げることができ、分かりやすいものがどういうものを理解できるようになり、相手の目線に立って必要な情報をまとめることが重要であるということが分かりました。実際にそのモデルを学会で発表し、専門外の人に説明した際にフィードバックや質問をしてもらい、理解していただき、目的のモデルを作ることができました。

研究室で身についた力 **計画力** **自己表現力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

アルバイトの塾講師で生徒に自分の解説が伝わらないこと、生徒の成績を上げることができていないことが自分の課題でした。そこで生徒の理解度を上げ、成績を上げるために2段階に分けてその課題を解決しました。まずは生徒との関係が大切だと考え、生徒の意見をしっかりと聞くこと、その意見を受け入れることを意識しました。そうすることで生徒の苦手分野を把握することができました。苦手な部分をより丁寧に解説したり、塾以外でも使える勉強方法などを取り入れた生徒に合った授業を行うことができるようになりました。その結果、生徒が解けなかった問題が解けるようになり、問題が解けるようになることで勉強が楽しく感じてもらうことができました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

私は大学で生命科学やプログラミングを学び、プログラミングでは自分で試行錯誤した中からイメージ通りのものが完成して成果を上げることができ、それをうれしく思い、プログラミングに興味を見出しました。また自分の出生時に医療に助けられたことや両親が医療機器メーカー

に勤めており、話を聞くことで、自分も医療に関わって人を助けたいと感じました。

このように、興味のある異分野のどちらにも携わりながら社会に貢献したいと思い、医療機器業界を選択しました。

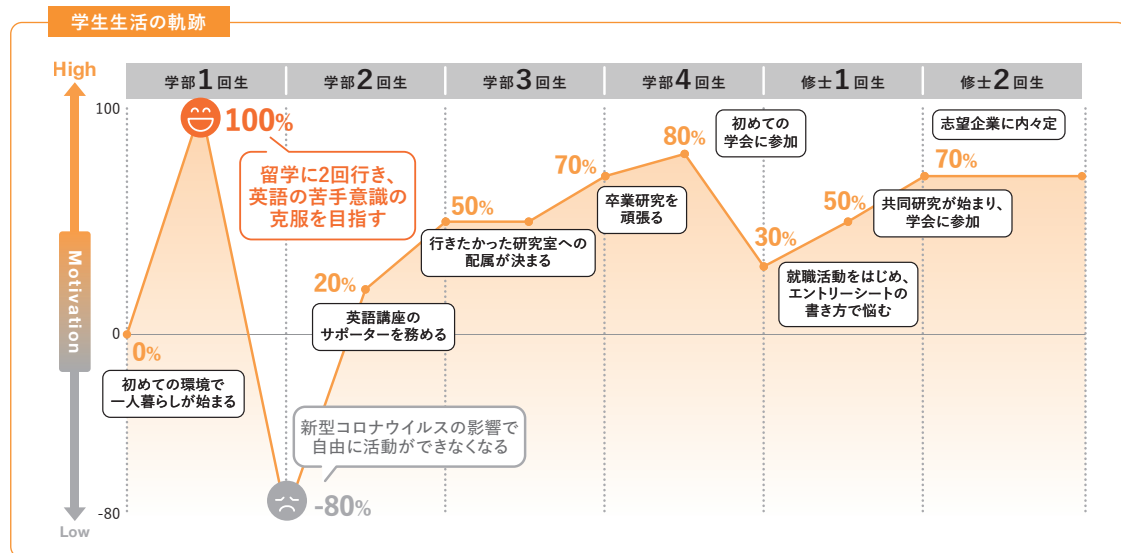
研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

発表や卒業があり、研究には期限があるため、いつまでに区切りをつけるのか、それまでにどのように進めていくのかを考えて過ごすことで、計画力が得られたと感じています。

また、自分の研究を専門外の人にも分かるように説明する必要があるため、研究室内での発表や学会発表で自己表現力が得られたと感じています。

現在のお仕事内容を簡単に紹介ください。

組み込み製品のソフトウェア開発を担当し、機能設計・プログラミング・動作確認など、一連の工程に携わっています。



学生時代の様々な経験が社会で生きる

19

修了生



2019年3月 修士・生物学コース修了
酵素工学研究室
石山 真乃介 さん

お勤め先企業の業種と職種：製造業(食料品)・研究開発職
課外活動：バスケットボールサークル

正課授業・研究室生活

正課授業において友人を巻き込み自らの成績を下位群から上位5%に上げました。大学入学時の学力試験で得点が下位群に分布にされたことを確認し、自らの学力の低さに失望しました。学力向上のために成績上位10%を目標に設定した上で、講義内容の理解と定着を意識し改善に努めました。講義での疑問を放置せず、友人や先輩へ質問を持ち掛け教わったことをメモし、試験前にはメモを使って対策ノートを作製することで、友人に学んだことを還元しながら共に確認し、知識の定着を図りました。

周囲を巻き込んだ勉強方法を続けることで、大学4年間の成績は常に上位5%を達成することができました。

研究室で身についた力 **コミュニケーション力** **問題解決力** **論理的思考力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

塾のチューターとしてアルバイトをしていました。その自習室は利用率が低いという課題があり10%程度でした。生徒の学力向上の一助として利用率改善が繋がると考え、利用率50%を目標に改善活動を始めました。原因を探るため生徒にヒアリングし、開放的、且つ、光が電球色でリラックス感があることを見出しました。塾長にこれらを報告し、「席に敷居を作り、光が昼白色の集中できる空間の設置」を提案しました。その結果工事が行われ、利用率は53%にまで増加し、利用していた生徒の学力向上も確認できました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

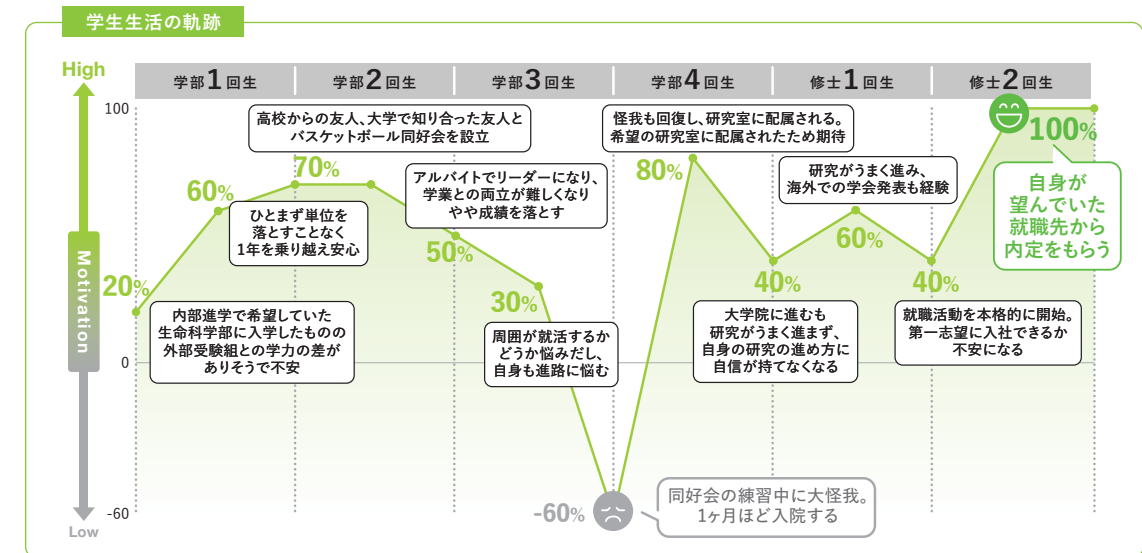
いくつかの企業から内定をいただきいずれの企業も魅力的かつ第一志望レベルであったため、どの企業でキャリアを始めるか悩みました。悩む状況の中、最後の決め手となったのは面接官たちの人柄でした。面接官は将来的な同僚や上司になる方が担当すると思いますが、選んだ企業は面接官全員が自身の仕事の魅力を楽しそうに話していたことが印象に残りました。私もそういった方々と一緒に混ざって楽しく仕事をしたいと思い、今の会社でキャリアを始めることとなりました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究室では廃棄物を利用した新規醸造飲料(酒)の開発を行っていました。チーズの副産物であるホエイは、味・保存性が悪いため利用法が限定され、多くが廃棄されるため新たな利用法として酒の開発を試みました。しかし開発を進める中で、日本酒やビールで扱われる材料ではアルコールの生産段階にまで至らなかったため、「本来の酒造りで扱われない特殊な材料を用いる」という独創的な発想で試行錯誤を行いました。その結果、高栄養価な新しい酒を完成させることができ、ホエイの新たな利用法を提案できました。

現在のお仕事内容を簡単に紹介ください。

冷凍食品メーカーで餃子の開発を担当しています。最近担当したものは冷凍餃子をフライパンで焼いた際に張り付いてしまうため、それを改善した餃子の開発でした。SNSでお客様に張り付くフライパンを送っていただくよう企業アカウントから呼びかけ、3,520枚のフライパン集めそれぞれなぜ張り付くのか徹底的に検証しました。検証結果から仮説をたて1つずつ確認し、SNSでの呼びかけからおおよそ半年で改良した餃子を世に出すことができました。現在さらに剥がれやすくする方法を研究し、お客様がより感動で笑顔になるよう開発を続けています。



考えて行動する環境下で主体性が身につきました

20



卒業生

2020年3月 学部・生物工学科卒業
生体分子化学研究室
伊吹 春香 さん

お勤め先企業の業種と職種：分析機関・技術系事務職
課外活動：アルバイト、UCDサイエンス&テクノロジー留学プログラム

正課授業・研究室生活

【卒業研究】研究テーマは「α1, 2-マンノシダーゼ様タンパク質 EDEM3の機能解析」という生化学系のテーマで、細胞培養やタンパク質精製を行っていました。研究を始めた頃は順序通りに実験を行うことに精一杯でしたが、工程実験に反応時間や培養の工程が多いなど感じていました。先輩や教授は実験操作のことは教えてくれますが、効率的に行う方法は自分で考える必要がありました。そこで、反応時間が長いタイミングにお昼休憩がとれるように実験を行ったり、結果報告会の日から逆算して培養を行ったりと、常に計画を立てながら、実験を行うことを意識して取り組むようになりました。卒業研究を始めた半年間は思うような結果が得られず、苦戦していましたが、武田先生のご助言を参考に試験条件を変更したところ、仮説を保證する結果を得ることができました。私の研究はそこで卒業のタイミングとなってしまったのですが、卒業後に研究が論文となり、とても嬉しかったです。研究室生活を通じて、計画して行動するという力が大きく養われたなど実感しています。社会人になった今でも強みとして活かすことができていると思います。

研究室で身についた力 **計画力** **コミュニケーション力** **主体性**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

【アルバイト】飲食店のホールスタッフとして、4年間アルバイトをしていました。出勤初日にお客様から、お手洗いはどこか聞かれたのですが、答えることができませんでした。サービスを提供することに経験値は関係なく、新人スタッフであっても責任感を持たなければいけないと痛感しました。

経験を積み重ね、大学4回生の時には、満席時にお待ちのお客様に予想待ち時間をお伝えするウェイトングというポジションを担当していました。ある日、お客様に不満感を与えてしまい、怒鳴られてしまったことがありました。社員さんや他のスタッフに相談し、自分だけで抱え込まず、サポートしてもらい、ご予約までの時間制限の席をご用意することで解決することができました。アルバイトの経験を通じて、状況を判断して臨機応変に対応する力が大きく養われたなど実感しています。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

【インターンシップ】理系職に就きたいと思っていましたが、研究開発職のようなクリエイティブな能力が必要となるお仕事に自信がありませんでした。そんな思いの中、3回生の前期(春学期)に食品メーカーのインターンシップに参加し、品質管理のお仕事に出会いました。製品の効能を裏付ける成分表示や原材料表示を見ることが好きだったのと、理系の

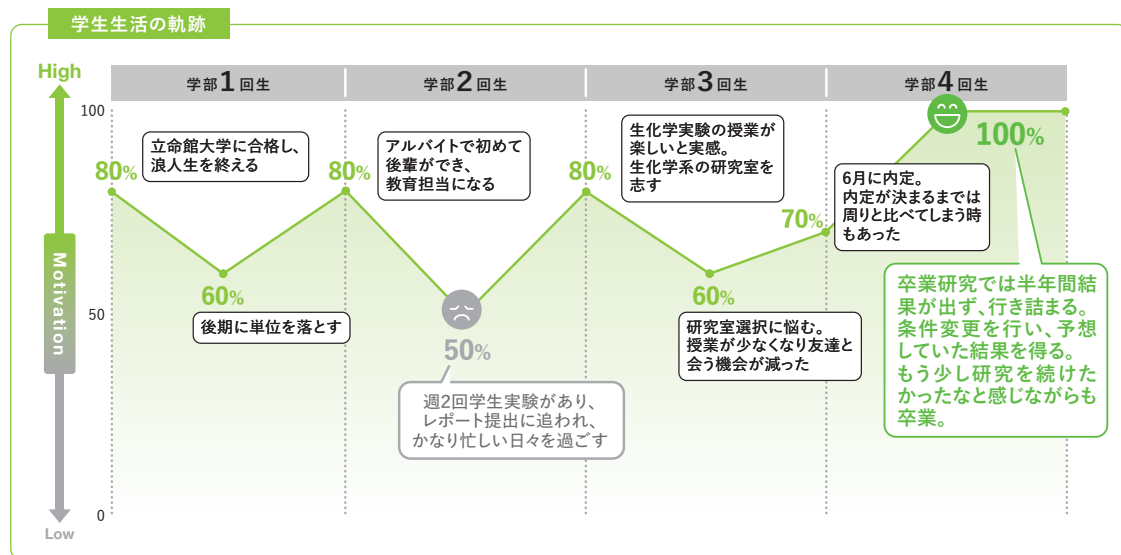
知識を生かせることから品質管理の仕事を決意するようになりました。大学院進学も検討していましたが、品質管理のお仕事は学部卒の方も活躍されている方も多く伺ったので、それなら学部卒のタイミングで挑戦してみようと思い、就職活動を本格的に始めました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

自分自身で考えて行動することから、主体性が身についたと思います。思うような結果が得られない時には、とりあえず先生に相談するのではなく、原因を考え、論文を探したうえで相談することを心掛けていました。受け身ではなく、主体性をもって行動することが必要だと思いました。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

第三者分析機関として、公立・中正な立場で国内外の企業様や官公庁様からご依頼頂いた分析試験を受託しています。受託サービス部業務課に所属し、分析試験の受託を担当しています。具体的には、試験条件や納期をお客様と試験担当者の間に入って確認したり、受託可否の問い合わせ対応を行ったりしています。現在は6年目になり、RPAやGASを活用した業務改善や海外展示会も経験しました。事務系のお仕事ではありますが、多岐にわたる分析試験に対応しているため、幅広い知識が必要になります。



課外活動から研究室生活まで充実した6年間

21



修了生

2021年3月 修士・生命医科学コース修了
薬理学研究室
清水 考朗 さん

お勤め先企業の業種と職種：医療機器(歯科材料)・研究開発職

正課授業・研究室生活

研究室に配属された4回生から大学院修了まで「潰瘍性大腸炎という腸の難病に効く生薬のメカニズム解明」というテーマに注力して取り組んできました。

【ぶつかった困難】研究をする上で、仮説を立てて実験をすることが必要になります。ですが、仮説を立てて何回も同じ実験をしても、仮説と反対の結果が得られた時期がありました。自分の仮説が間違っているのか、実験手法が間違っているのかが分からず、研究を進めることが出来ませんでした。

【どのように乗り越えたか】教授に相談すると、「実験手法は間違っていない。得られた結果を様々な角度から考察をしろ」と言われました。そこから、関連論文を読み漁りなぜこの結果になったのかを考察し、自分なりの新しい仮説を立てて研究を進めることが出来ました。

研究室で身についた力 **主体性** **コミュニケーション力** **問題解決力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

大学1回生から6年間、居酒屋のキッチンでアルバイトをしていました。

【ぶつかった困難】バイトリーダーをしていた頃、店舗リニューアルに伴って新人が急増した時期がありました。当時のアルバイト先にはマニュアルが無く、新人が間違ったレシピで調理をしてお客様からのクレームが多くなっていました。

【どのように乗り越えたか】マニュアルがあれば解決するのかと考え、資料を作成しましたが上手く伝わりませんでした。そこで、バイトリーダーである私が全メニューの調理シーンを撮影し、それをLINEで共有することでアルバイト全員が同じ品質の料理を提供することができ、お客様からのクレームは減りました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

大学3回生までは学部卒で就職することを考えており、就職活動をしていました。ですが、就職活動のエントリーシートで必ず聞かれる質問「学生時代に力を入れて取り組んだことを教えてください。」という、いわゆるガクチカに胸を張って答えることが出来ませんでした。それまで勉強・サークル活動・アルバイトは頑張っていたが、誰よりも頑張ったと言えませんでした。

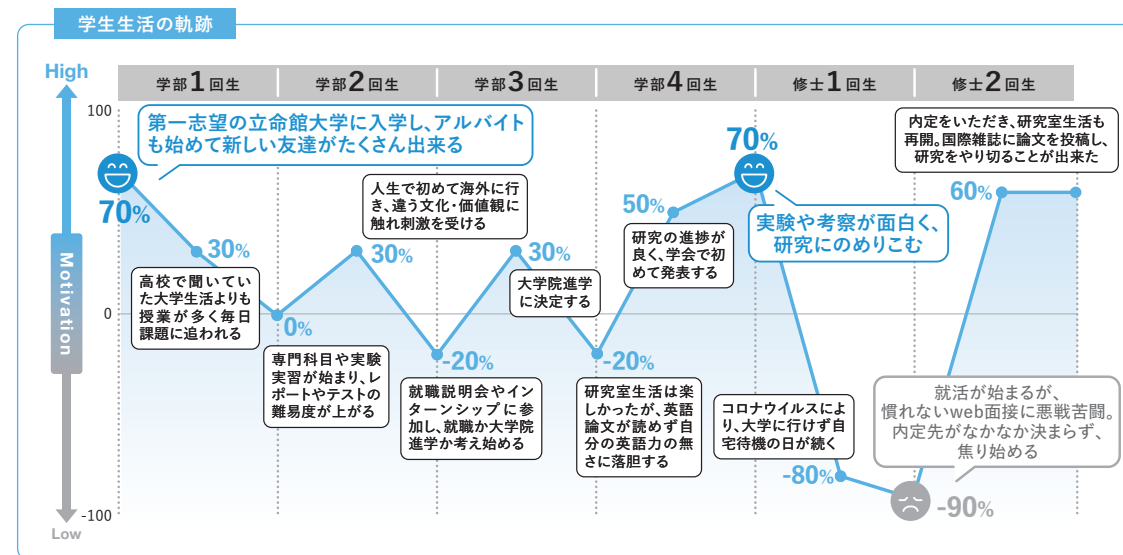
そこで、配属された研究室でのテーマを誰よりも全力で頑張ってみようかと決心し、大学院進学を選択しました。大学院での就職活動では、ガクチカに研究活動の事を書き、面接でも胸を張って答えることが出来ました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究テーマは各々ありましたが、基本的には5名程度のグループで活動をしていました。グループには、先輩・後輩・同期がいて、研究の課題を共有していました。その課題に対して、メンバーが論文を読んで解決策を提案したり、過去の知見を基にディスカッションを繰り返したりして課題を解決してきました。この経験が、主体性・問題解決力・コミュニケーション力の成長に繋がったと思います。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

現在は、歯科医院の治療現場で使用される材料の研究開発をしています。例えば、虫歯になった歯をドリルで削り取った後、その空洞に詰める光照射で硬化する材料を開発しています。他にも、矯正器具を装着するときの歯専用の接着剤や知覚過敏抑制剤も開発しています。



好きなことに打ち込んだ充実の研究生活

22



修了生
2018年9月 博士・生命科学専攻修了
生体分子ネットワーク研究室
大山 克明 さん
 お勤め先企業の業種と職種：医療機器・研究開発職(約3年)、神戸大学大学院・学術研究員(約2年半)、立命館大学・助教(現在に至る)

正課授業・研究室生活

研究室配属までは、正課授業でできるだけ単位を落とさないように気を付けていました。予習までは手が回りませんでした。よく図書館で復習はするようにして自分の中の知識として落とし込もうとしていました。すべての授業を無難にこなせばよかったのですが、学生の頃の私は計算やプログラミングへの苦手意識が強く、授業だけでは理解できない部分も多々ありました。そういった時は得意な友人に教えてもらうことで自分の理解できていない点を補完させていました。

研究室で身についた力 **課題発見力** **論理的思考力** **問題解決力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は？

化学・生物駆け込み寺の講師をさせてもらえる機会があり、様々な学年の学生が授業で困っている部分を一緒に考えて、解決することを意識していました。自分の出身学科だけでなく、いろいろな学科の学生が分野問わず聞きに来てくれるため、自身の知識の幅も広がったと感じています。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは？

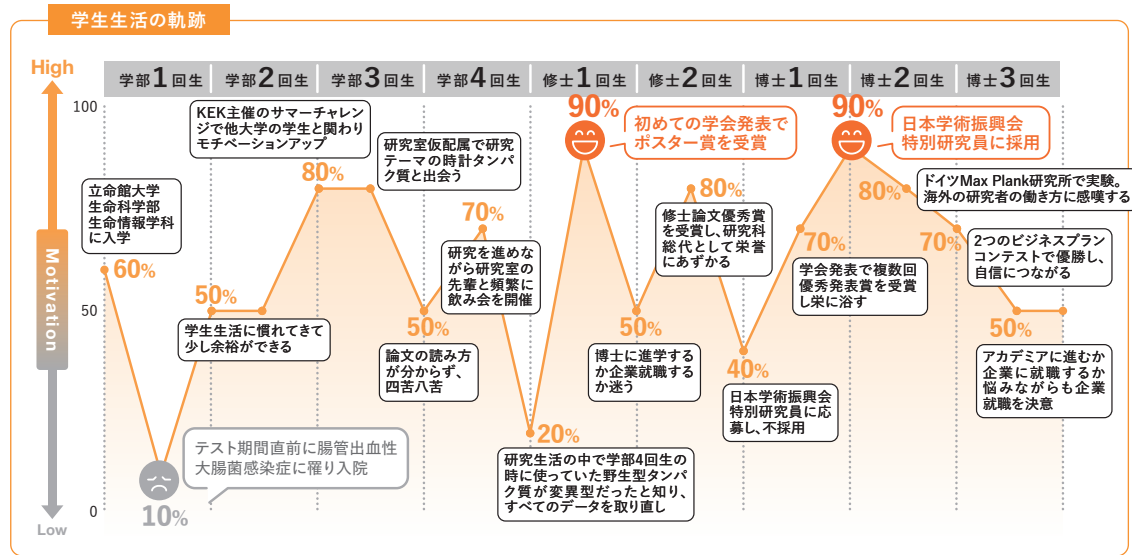
博士課程後期課程在籍時に参加していた立命館大学博士人材リーダー養成プログラムでの経験がキャリア選択に大きく影響していると感じています。このプログラムを通して様々な企業の方々と密に話をする機会をもらったことで、博士取得後に企業で働くイメージを持つことができました。プログラム参加後から研究成果を社会還元する具体的な方法を考えるようになり、アカデミアとして働く自分と企業で働く自分を想像することができるようになりました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは？

実験の中で想定していた結果と異なった結果が得られ、何故、想定と違った結果になったのだろうと考える中で、「論理的思考力」や「課題発見力」が培われたと感じています。研究を進める上での新しい課題が浮き彫りになるとその課題を解決する必要があるため、自然と問題解決力が醸成されたように思います。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

私は体内時計がどのようにして時間を計測しているのか、その分子メカニズムを明らかにしたいと思い研究をしています。体内時計が時間を刻む分子メカニズムを明らかにできれば、新規の分子タイマー創造や他生物の体内時計の理解に繋がるかと期待しながら研究を進めています。



学部生が自分の時間を最大化する方法

23



2025年度M1
生物工学科コース 構造生命科学研究室
飛田 駿吾 さん
 希望業種：製薬メーカー(研究職)
 課外活動(アルバイト)：ソフトテニスコーチ、集団塾講師

正課授業・研究室生活

私は西園寺記念奨学金を獲得することを目標に正課授業に取り組みました。アルバイトの時間を学業に内包できるので、かなりの時間を節約できます。多くの人は常に良い成績を取り続けることに負担を感じると思います。私も1回生の秋から2回生の春にかけてライフバランスを崩してしまいました。対面授業の再開やモチベーションの低下により、自分のリズムで勉強する感覚を失ってしまいました。このとき、原因を自分の中に探し始めてしまうとキリがありません。原因を1個ずつ潰していくことも大切ですが、時には割り切って新しいモチベーションを探すことをオススメします。私の場合、応援している芸能人が大きな賞を受賞したことを刺激に、自分のサイクルを取り戻すことができました。少し変わった正課への取り組みですが、負けず嫌いの方やコンパティティブな思考の方にオススメの大学生活です。

研究室で身についた力 **計画力** **集中力** **体力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は？

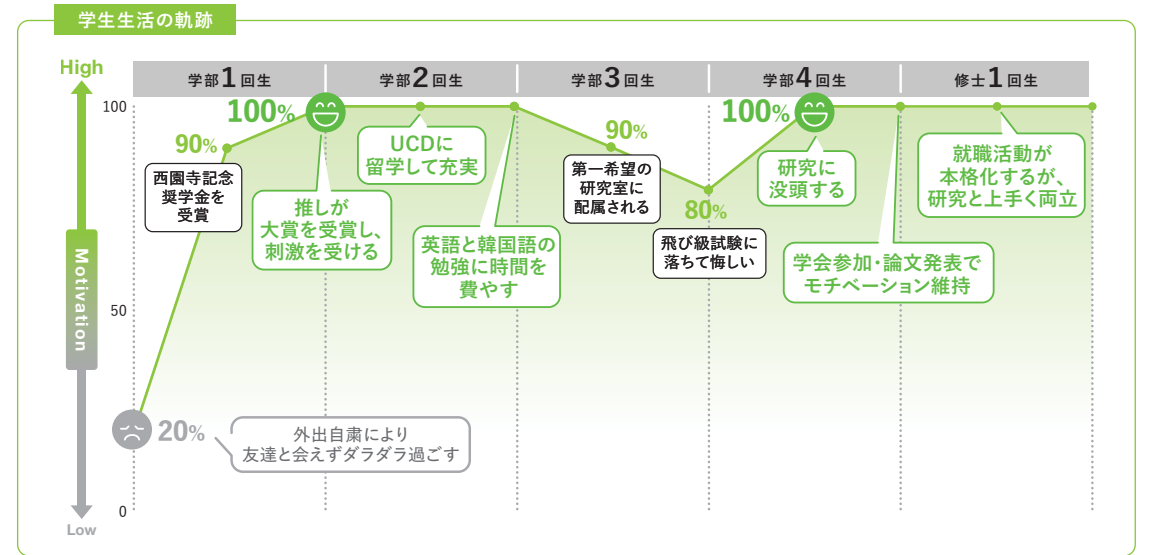
私は3年間ソフトテニスのコーチとして公立中学校で部活動を指導しました。他に集団塾講師、日本語講師など指導するアルバイトを中心に活動しました。これらの特徴は専門的な仕事であり、時給が高いことです。私はなるべくアルバイトをせずに自由時間を捻出したいと考えていたので、このような専門的な仕事に挑戦しました。これらの効率的なアルバイトに加え、西園寺記念奨学金を受賞することで十分な自由時間を確保しました。私はこうして自分の時間を捻出することで、たくさんのことにチャレンジできました。特に、推しについての動画投稿は精力的に行い、収益化を達成するまで成長させることができました。この経験を通して、動画編集やマーケティングといった新たな能力を発展させることもできました。さらに、動画投稿で成功したことが大きな自信に繋がり、絵画を描いて個展開催、ソフトテニスの練習、ダンスを練習するなど多方面に活動を行うことができました。まとまった時間を確保できる学生のうちに、多様な挑戦をすることができて満足しています。今後も継続的に新しい物事に挑戦し、より一層成長していきたいと考えています。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは？

学部生の間は座学が中心で、考えて研究する機会は少ないです。研究活動を通して、世界の誰も知らないことを見つけて論文として発表することがカッコいいと思ったので、大学院進学することに決めました。これからも研究に打ち込んで、学会や論文に関わっていくことが目標です。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは？

研究室では、時間を有効に活用するために複数の実験を並列して行うことが多いです。例えば、私は1日で11種類の大腸菌を培養したことがあります。それぞれの大腸菌は増え方に差があり、正確な量まで増殖させるために集中して管理する必要があります。他にも培養とタンパク質の精製を同時に進行することは多々あります。これらの経験を通して、時間管理しながら複数の業務を行う集中力や常に研究室中を動き続けることによる体力が鍛えられたと思います。同様に複数の実験を短期間および長期間で管理する計画力も身に付いたと感じます。また、研究をすると分からないことがたくさん出てきます。そのような場面で、きちんと「分からない」と言うようになりました。今までは、少し調べれば答えがわかるような物事にばかり接していたので、曖昧な回答をしてしまっていました。しかし、研究活動を通して、分からないことが恥ずかしいことではないと気づき、人間として成長することができました。



新しいことに挑戦し続けた研究生活

24



2025年度D1
生命科学専攻 高分子材料化学研究室
緒方 真希さん

希望進路：研究職

正課授業・研究室生活

「取り組んだこと」研究室生活においては特にアカデミックなプレゼンテーション力の研鑽に力を入れました。研究生活の中で、自身の研究成果を発表する機会は多くあり、特に、学会発表は専門分野の研究者に自身の成果を発表する良い機会です。学会発表をするには多くの実験結果も必要ですが、論理的に説明する力が最も求められます。

「大変だったこと」修士1年目の夏に初めて学会に参加しましたが、特にプレゼン作成が大変だったことは今でも鮮明に記憶に残っています。それまでに本格的にアカデミックなプレゼンをする機会がなかったので、初めてのことでとにかくとても苦労しました。

「どう乗り越えたか?」初めのうちは右も左もわからない状態でしたが、まず過去の先輩の資料を真似ることから始めました。次に、先輩や助教に相談し、何が悪いのか、どうすれば改善できるかなどアドバイスをいただきました。その後は何度も推敲を重ねて、良いプレゼン資料を作成することができました。このときの経験は、社会に出た後も役立つと実感しています。

研究室で身についた力 **主体性** **論理的思考力** **コミュニケーション力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

「取り組んだこと」学部時代はビザチエン店でアルバイトをしていました。時給もよく深夜まで働けるので効率よく稼ぐことができました。要領も良い方だったと自負しているので、時間帯責任者にも任命されました。そのおかげで優先的にシフトを考慮してもらえていたと思います。また、従業員も同年代が高校生が多かったので、とても楽しく働くことができました。

「ぶつかった困難」深夜まで働けることは良かったのですが、学業との両立が大変でした。効率よく稼ぐために深夜にシフトを入れると次の日の授業や研究に支障が出ます。学業もがんばりたいが効率よく稼ぎたい、このちょうどいいバランスを見つけることに苦労しました。

「どのように乗り越えたか」結果としては、平日にはシフトを入れず、休日にフルで入らせてもらっていました。そのおかげで平日は学業に集中することができました。また、平日は学業、休日はバイトとメリハリをつけて頭を切り替えることができていたので、学業への集中力向上にもつながりました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

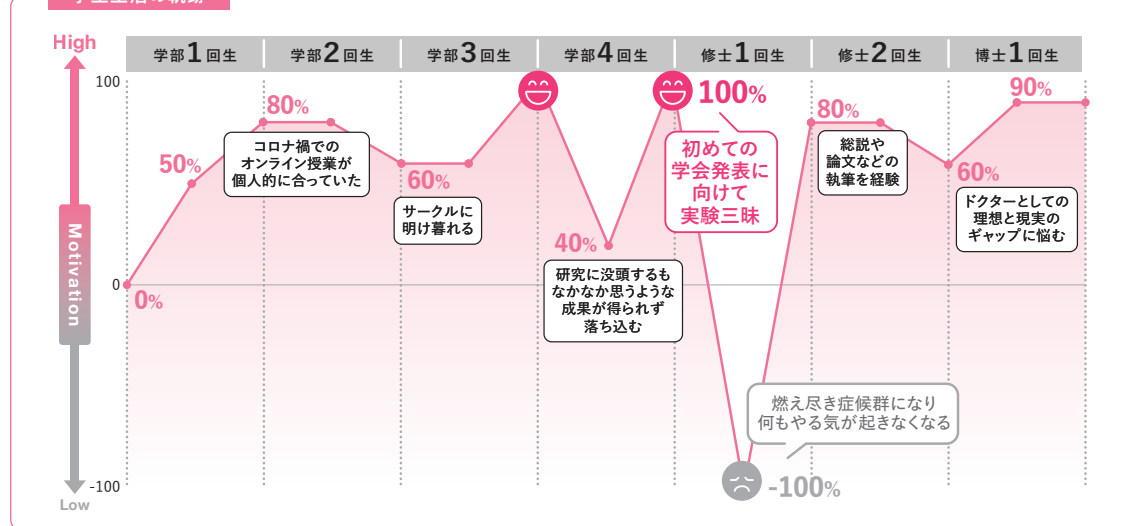
大学院に進学することは学部に入学した時点で決めていました。その時は、理系を選択したからには修士課程まで進むのは当たり前前代という偏見からそう考えていました。その後のキャリアパス1回生春の講義で担当教授が「これからは理系は修士卒が基本となる時代」とおっしゃっていたことを受け、自分の選択は間違っていないと確信しました。博士課程進学を決めた理由は、さらに自身の研究遂行力や論理的思考力を研鑽した

と思ったからです。修士課程での研究生活を経て、まだまだ自分は研究者として未熟であると感じました。このまま社会に出てあまり役に立っていないのではないかと、それならばさらにアカデミック分野で学ぶべきことがあるのではないかと考えました。実際に、博士課程の先輩からも、学部・修士課程での3年間と、博士課程での3年間を比べるとはるかに博士課程の方が成長できると教えてもらいました。このアドバイスもあり、博士課程進学を決断しました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

日々の研究や学会への参加を経て、主体性や論理的思考力はもちろんのこと、コミュニケーション力はかなり向上したと実感しています。研究室に配属される前は、研究は一人で進めるものと思っていました。しかし、実際に研究を始めると、人と人の関わりが研究を促進させるということを体感しました。自分一人で勉強する時間ももちろん大切ですが、同期や先輩とのディスカッションがとても重要であると実感しています。このことは、先輩ができてからさらに強く感じるようになりました。教えるためにアウトプットをすると、自分の中での理解が深まり、逆に理解できていない部分も浮き彫りになります。さらに自分の研究が行き詰まった時も、研究室メンバーとディスカッションすることで解決策が見つかったり新たな課題を発見できたりします。このような経験から、円滑にディスカッションを進めるコミュニケーション力はかなり身についたと感じています。

学生生活の軌跡



研究に夢中になった学生生活

25



2025年度D3
生命科学専攻
生体分子ネットワーク研究室
稲垣 知実さん

正課授業・研究室生活

私が研究室配属されたのはコロナが流行した年で前期(春学期)はほとんど研究室に行けない状況でした。入学当初から研究が楽しかったので入構が許可されると毎日研究室に行き実験していました。毎日大学に行くことを5年弱続けていると「継続は力なり」、完ぺきではないですが、成果は少しずつ得られてきています。

今でも実験が上手くいかないときや進まないことはたくさんあります。研究室の同期や先輩・後輩とご飯を食べたりお喋りすることで気分転換し、冷静になることで見えていなかった失敗の原因が分かったりすることも多いように感じます。

私は研究がしんどくて逃げたいと感じたら逃げてしまいますが結局研究室に戻ってきてしまうのは、今の研究に魅力を感じている証拠だと思います。

研究室で身についた力 **コミュニケーション力** **自己表現力** **課題発見力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

学生生活は、「やってみたくは絶対に実行」してきました。学部生の時は、長期休暇を利用して数週間キャンプしたり、海外ボランティアに行きたくなりアフリカまでいきました。また、食べることが好きでうどん屋やレストラン、学食でバイトをし、車も好きなのでレンタカーショップでバイトをしていました。好きなことややりたいことをして自由に見えますが、私一人の力で実行できているわけではなくたくさんの人との関わりで成立していると感じています。

大変な困難にぶち当たった経験はないのですが、人と関わるとその数だけ意見や気持ちがあるのでそれをまとめたり納得いくようにたくさん話し合ったりしたことを覚えています。

今は研究に力を入れています。研究室、学会発表等でもコミュニケーションがとても重要なのでこの経験がいかされているように思います。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

生命科学部では、半数以上が大学院進学するため、自身も進路の一つとして大学院へ進学することを漠然と考えていました。進路を決めるにあたり、就活も行いました。しかし、研究を進める中でその面白さの虜になり大学院進学を決めました。

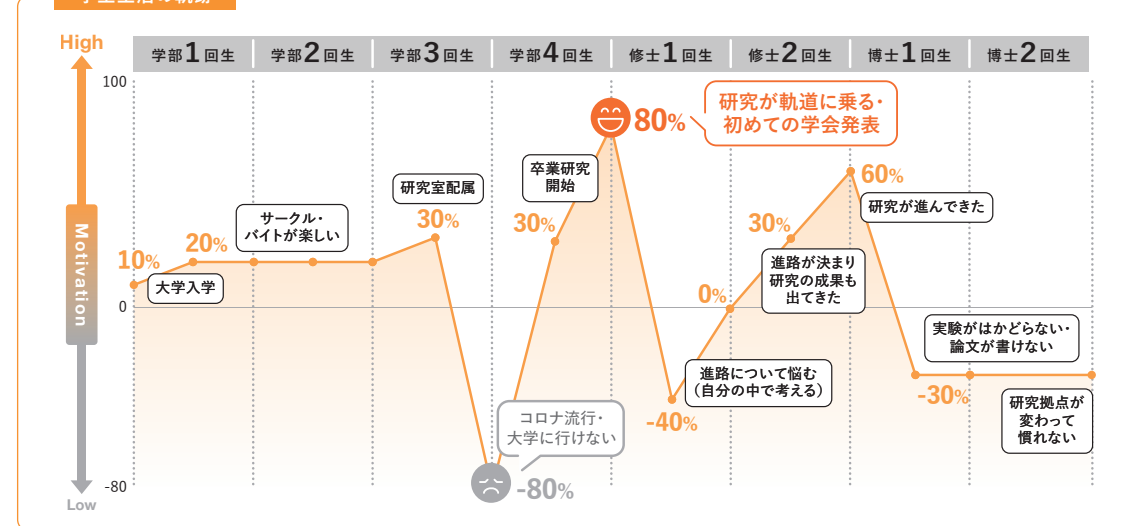
博士課程前期課程(修士課程)へ進んだ後、卒業後は多くの人と同じように就職するものだと考え就活をしましたが、常に実験のことを考えるほど研究への想いを捨てきれず、博士課程後期課程に進学する決断をしました。友人たちは就活している中での決断をしたことや、本当に私が博士号を目指すのか不安だらけでした。私には、博士課程後期課程は大変でこの不安は消えていませんが、好きな研究を毎日することができてとても充実しているので進学を選択してよかったと思っています。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

学会発表や、研究室のセミナーなどで多くの人の前で話す機会が増えコミュニケーション力と自己表現力が身につきました。研究室配属された当初は、発表やディスカッションが苦手で人前に立つだけで頭の中が真っ白になっていました。しかし、せっかくなので自分の研究を聞いてもらえる機会があっても相手に伝わらないと発表する意味がないのでどのように表現したら伝わるのかを考えるようになりました。今でも緊張はしますが、質問してもらえるようになり伝えたいことや言いたいことが理解してもらえているように感じています。

また、研究が進めば進むほど他の疑問が生まれるようになったので、課題発見能力も研究室で得られたのではないかと思います。

学生生活の軌跡



自身の興味を突き詰めるために研究に励んだ日々

26



正課授業・研究室生活

所属研究室にこれまでになかった研究テーマを提案し、確立しました。リハビリテーションによって脳梗塞後の機能障害が改善するという脳の可能性に興味があり、その詳細を明らかにするために実験系を一から立ち上げることを提案しました。他大学に通うことで必要な手技を獲得し、立命館大学でも再現できるよう、評価に必要な実験条件・環境などを最適化できるように試行錯誤しました。

修了生

2023年9月 博士・生命科学専攻修了
薬理学研究室
山口 菜摘 さん

お勤め先企業の業種と職種：化粧品・研究職
課外活動：軽音楽サークル

研究室で身についた力 **コミュニケーション力** **論理的思考力** **計画力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

軽音楽サークルに所属し、そのうち2年間を幹部として務めました。1年間に数回行う演奏会の運営に特に力を入れて取り組みました。正確な時間管理が必須のため、最も効率がよい1日の流れを分単位で調整し、その予定通りに実行する手立てを熟考しました。最初はうまくいかないことも多くありましたが、問題点を分析したり、先輩から助言をもらったことで解決策を見出すことができました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

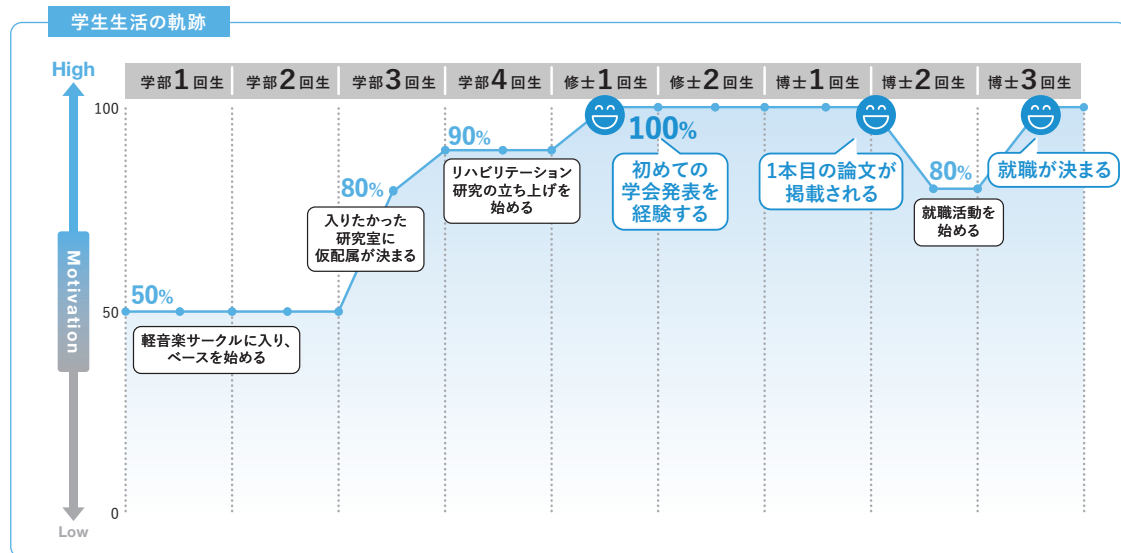
人々の暮らしをよりよくしたいという想いがあり、大学院では脳梗塞後の機能障害改善の研究に取り組んでいました。キャリア選択の際、自身の研究成果を商品として世の中に届けられることができる職業に就きたいと考えようになりました。その中で、メイクアップによって心を前向きに保つことができると実感した経験から、化粧品業界に興味を持ちました。安心できる品質と高い機能性をもつ原料の提供によって様々な化粧品づくりを支えていることに魅力を感じ、今の会社を選びました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究テーマの立ち上げ以降、後輩の学部生が研究室に配属されるたびに自身の研究の魅力をアピールし、興味を持ってもらえるように尽力しました。卒業の際には一番大きなチームにまで成長し、日々の研究生生活ではコミュニケーションを大事にすることで意思疎通を図り、チームが円滑な研究生生活を送れるように心がけていました。論文執筆の際には、論理的な話の組み立てや、必要な事実から逆算して実験計画を立てることが必要であったため、計画力や論理的思考力が身についたと感じています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

化粧品に配合される原料の研究開発



興味あることに挑戦し続けた学生生活

27



正課授業・研究室生活

研究活動に最も注力しました。思うように成果が得られず、苦しいことが多かったです。文献をもとに得られた結果を考察、仮説を立てて検証する、このサイクルを丁寧に繰り返すことで困難を乗り越えられました。学部4回生から博士課程までの研究成果をまとめた論文がアクセプトされ博士号を取得できました。

修了生

2024年3月 博士・生命科学専攻修了
生体分子化学研究室
上嶋 里菜 さん

お勤め先企業の業種と職種：大学・研究機関・研究職
課外活動：弓道サークル

研究室で身についた力 **主体性** **コミュニケーション力** **問題解決力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

大学入学前から興味を持っていた海外留学に積極的にチャレンジしました。学部生時は、生命科学部や理工学部が主催する、カリフォルニア大学デービス校やインド工科大学ハイデラバード校への留学プログラムに参加しました。修士課程1回生ではGlobal-ready Graduate Program (GRGP) を利用してメルボルン大学にて有機化学の研究技術を磨きました。これらの海外経験を通して、博士課程修了後は海外の大学や研究機関で研究することにあこがれを持ちました。念願かなって現在は海外の大学で研究者として働いています。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

学部生のころは企業の研究職に就きたいと思い修士課程へ進学することを決めました。

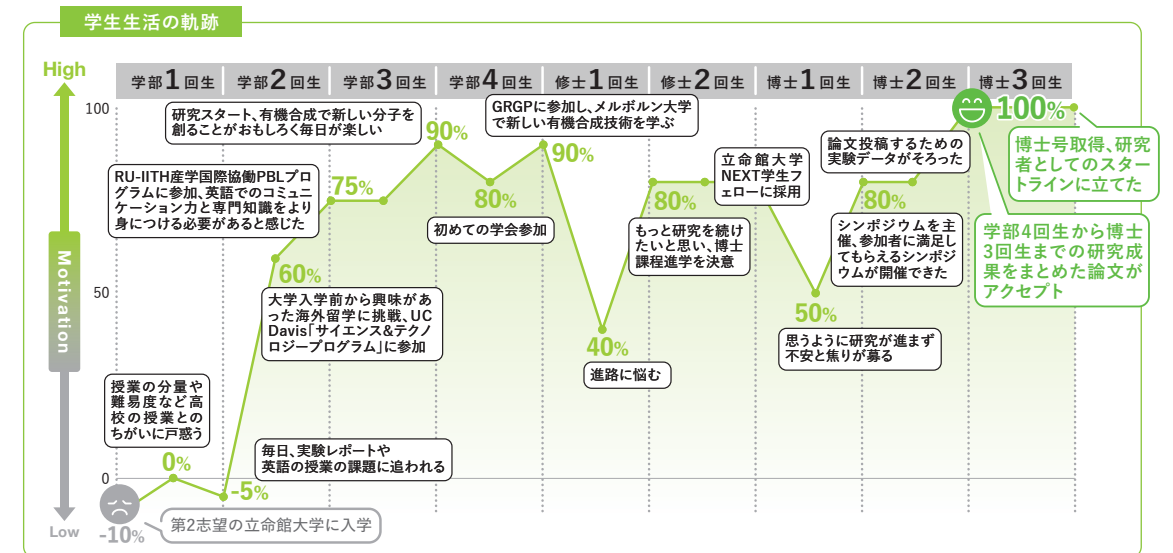
研究を進めるなかで、もっと研究技術を磨きたいと思い博士課程へ進学しました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

学会などの研究成果発表の機会を通して、自身の考えや意見を相手に的確に伝えるコミュニケーション力が身についたと感じています。このコミュニケーション力は、様々な分野の研究者が集まる現在の職場で、自身の研究内容や研究成果をディスカッションするときに役立っています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

海外の大学で研究員として研究プロジェクトを進めています。立命館大学・大学院で身につけた有機化学や生物学分野の研究技術を活用し、酵素や自ら設計・創製した新しい分子を使って、医薬品や機能性分子など産業界で役立つ有機分子を合成するための研究に取り組んでいます。



充実した研究活動を通じた挑戦と成長

28



修了生

2025年3月 修士・生物工学コース修了
構造生命科学研究室
三島 夕佳 さん

お勤め先企業の業種と職種：製薬企業(研究職)
課外活動：料理サークル(コロナでほとんど活動できず)

正課授業・研究室生活

研究活動の中で困難だったことはタンパク質の結晶化実験です。800条件を超える結晶化条件の選定と時間をかけて作った結晶が何度も溶けるという2つの困難を乗り越えました。これらの課題に対して、実験環境を柔軟に変えるということを意識して取り組みました。具体的には、先生方や研究室のメンバーと積極的にコミュニケーションを取り、他者の意見を取り入れる事や周辺実験の結果からヒントを得ることで。

結果、結晶化実験に成功し、大きな成果を得ました。他にも、様々な困難はありましたが、研究活動を通して自分の中で常識を懲り固めないようになりました。

研究室で身についた力 **計画力** **論理的思考力** **集中力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

5年半、塾講師として特に勉強が苦手な生徒の成績向上に注力してきました。勉強が苦手な子の多くは、問いかけへの反応が薄く授業に集中できない課題や、理解が曖昧な課題があり、なかなか成績向上に繋がらない困難がありました。そこで、まずは私自身に興味を持ってもらう必要があると考え、信頼関係の構築から行いました。また、授業内で躓いた問題を中心に自作プリントを作成し、生徒の生活スタイルに合わせて宿題を出すことで勉強習慣の促進と知識の定着をサポートしました。生徒一人一人に真摯に向き合うことで、ある生徒は3年かけて5教科平均点を20点から60点に向上させることができました。アルバイトの経験を通して課題に対して多角的にアプローチする力を身につける事ができました。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

公務員と民間の両方を選択肢に入れたことで、自身が本当にやりたいことを最終的に決める事ができたと思います。M1の段階で試験を受けていたからこそ、民間の就職活動を始める前の早い段階で公務員が自分の思い描く将来像とは異なると感じることができたのはいいきっかけだったと思います。民間の就職活動では、興味のある製薬業界と化粧品業界を中心に受けていました。製薬業界では、現在の研究活動に近いという理由で基礎研

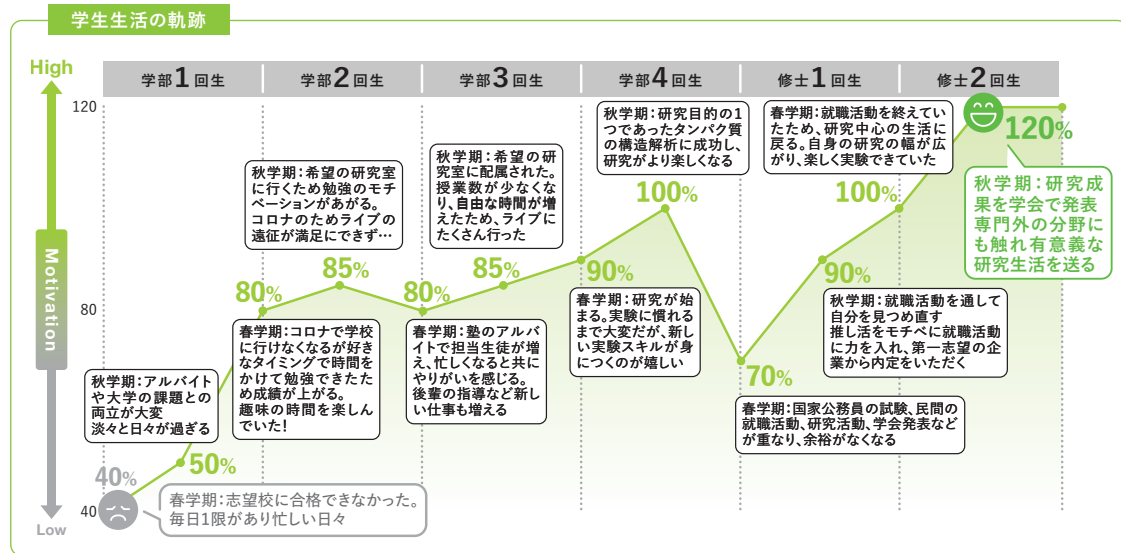
究を中心にみていましたが、就活の軸や将来像を改めて考え直すことで、やりたい研究を見つける事ができました。製薬業界と化粧品業界の選択は迷いましたが、内定後に企業訪問をし社風を体感する、キャリアセンターの方に相談する、ワークライフバランスの取りやすさを比較するなど様々な観点で将来を考えることで最終的に意思決定することができました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究では、異なる実験を同時進行で連日行う事が多いです。月、週ごとの日にやる事ややるべきことを細分化してスケジュール管理をする癖が自然に身に付きます。また、研究室内の論文抄録、報告会の時間や学会発表を通して論理的に述べるといふ力も身に付きました。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

製剤研究部という部署に所属しております。主な仕事内容は、有効成分と添加剤を適切に組み合わせ、錠剤が体内で望ましいタイミングで溶けて吸収されるように処方設計を行うことです。設計時には患者さんにとって飲みやすい錠剤にすることを大切にしています。また、工場と同じ品質の錠剤を安定して大量生産できるかどうか製造ラインのことも考えています。粉体物性、錠剤の崩れ方、固まり方などを確認しながら様々な分析機器を用いて日々検討しています。



墮落の大学生活から大幅に成長できた大学院生活

29



修了生

2024年3月 博士・生命科学専攻修了
有機材料化学研究室
吉田 悟 さん

お勤め先企業の業種と職種：総合化学メーカー/商品開発・生産技術職
課外活動：中高生の部活動指導・宅配ピザチェーンのアルバイト(調理・配達)

正課授業・研究室生活

研究室では、個人の研究活動に加えて、研究室運営に力を入れておりました。正解もなければ終わりもないのが研究なので、どれだけ睡眠時間を削っても満たされないとこがとでも大変でした。将来企業で活躍できる人材になるための試練だと思って、全力で研究活動に向き合ってきた結果、自然と業績が積みあがっていき、卒業時には研究室生活で大きく成長できている自分に気づくことができました。また、研究室運営(後輩指導・研究費管理・業者対応等)についても積極的に取り組むことで、研究活動だけではなかなか得られないけれど企業では強く求められる「責任感」や「マネジメント能力」も養うことができたと感じております。

研究室で身についた力 **問題解決力** **論理的思考力** **課題発見力**

取り組んだ活動とその成果

力を入れて取り組んだ課外活動(アルバイト含む)は?

ピザの宅配チェーンでアルバイトをしていましたが、店舗に貢献するために必死になっていました。毎日肉体的にも精神的にもせせと働いていました。アルバイトにも全力に取り組んでいた結果、仕事をするととても重要である、効率やコストを考える癖が自然とついていったと思います。ピザの配達一つでも道の道を通って早く安全に早くお届けできるかということを一日に何十回も考えるので、この「考える癖」は研究活動や現在の仕事にも役立っていると思います。

キャリアの選択に影響を与えた経験やきっかけは?

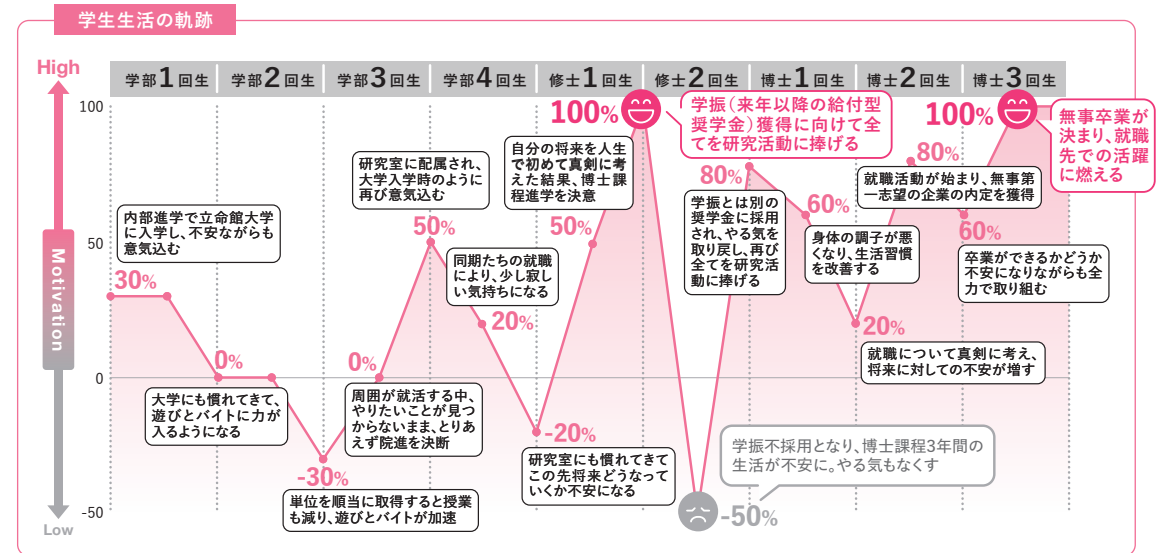
私は特別興味のある業界や職種がなかったため、将来自分が活躍できそうか(必要とされるか)を基準(軸)に就職活動(企業選択)をしておりました。大学院(修士・博士)に進学した理由の一つが、周りの人にはない武器を身につけ、希少価値を高めたかったからでした。自分のやりたいことをやることも素晴らしいことですが、私は、自分に与えてもらった(必要とされた)役割の中で、やりがいを見つけ出して全力で取り組むということを大事にしておりました。

研究室で身についた・成長につながったと感じたエピソードは?

研究は正解のない問いに対して、考え抜くことで、最も正しいであろう答えを導くということを繰り返して行っています。それによって培ってきた最も妥当な結論を出す力(論理的思考力・洞察力・広い視野)は、仕事上のあらゆる課題に向き合う上で重要であり、業界が全く異なる現在の仕事にも大変役立っています。

現在のお仕事内容を簡単にご紹介ください。

現在は工場の技術者(商品開発職・生産技術職)として勤務しておりますが、将来的には工場での経験を活かして、ものづくりの上流である研究開発職で活躍したいと考えております。商品開発では、企業の研究開発によって得られた技術・アイデアを基に、世の中で売れるであろう製品を考え、設計して、試作してみる仕事です。生産技術職は、その開発された商品を工場で大規模生産する方法を考え、どうすればより高品質なものを安く作れるか、より早く効率的に作れるかなどを検討して実践していく仕事です。



各制度のご紹介

立命館大学には、あなたの学生生活を充実させることができる、さまざまな活動をバックアップする窓口や制度があります。是非ご活用ください。(問い合わせ窓口・QRコードは2026年2月時点の情報になります。)

分類	項目	概要	問合せ窓口・QRコード
1 学び・研究	ゼミ・専門研究 実験実習・ フィールドワーク 教養を磨く	生命科学部には、様々な科目やプログラムが展開されています。今だからこそ、学びのカタログ『学修要覧』や『シラバス』で、皆さんの学びの広がり、可能性を見てみよう！特に、学部・専門・研究と科目の体系を知ること、日々の授業が楽しくなるはず。立命館の幅広い分野で展開される教養科目で、「ものの見方・考え方」の幅を拡げよう。また、生命科学部での専門研究が社会でどのように関わっているかを体系でできる調査実習・フィールドワーク科目・研修プログラムはお勧め！	RITSUMEIKAN STUDENT PORTAL 各学部のページから『学修要覧』『シラバス』が閲覧できる！
	学習ペースを コーディネートする	SSP(Student Success Program) は、学生「一人ひとり」が正課と課外すべての学生生活を通じて学びの主体として「自立」し、最大限の「成長」を遂げられるようになるための学生支援です。課題の進め方やレポートの書き方をはじめ、学生生活の充実に向けた様々な取り組みを実施しています。	SSP https://secure.ritsumei.ac.jp/ssp/ 
	大学で学ぶための 基礎力を磨く (化学・生物駆け込み寺)	初年度に基礎科目をきちんと理解しておくことが、後の研究活動において非常に重要になります。授業の内容の中で、少しでも分からないところがあれば、時間を見つけて速やかに利用することが重要です。化学・生物駆け込み寺は、問題の解答を教えるところではありません。化学・生物学修を通して、将来本当に役立つスキルを身につけましょう。開講期平日授業日を中心に、オンラインで質問を受け付けます。分野は、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、生化学、生物科学の幅広い領域に対応しており、授業で分からなかったこと、勉強の仕方や課題への取り組みに関するアドバイスを受けられます。他に、数学学修相談会や物理駆け込み寺もあります。	化学・生物駆け込み寺 http://www.ritsumei.ac.jp/ls/introduce/kakekomi/toppage/ 
	資格を取得する	学内には、資格取得や難関試験合格を目指す方に向けた各種講座をオンラインで開講しています(有料)。学内で受講できることで格安に、かつ、通学・移動の時間をセーブして、集中できる環境にあります。資格という形で、自分の可能性を拡げてみては？ また、低回生の国家公務員総合職を目指す1~2回生を対象とした「立命館産塾」なども開講しています。Ex)技術系公務員講座・公認会計士講座・宅地建物取引主任者試験講座・MOS・CAD利用技術者など	エクステンションセンター [衣笠] 研心館1階 [BKC] プリズムハウス2階 [OIC] A棟1階 https://www.ritsumei.ac.jp/extension/ 
	大学院へ進学する	大学院への進学を考える方には、学内での入試説明会で情報収集してみよう。春学期および秋学期に、研究科合同入試説明会を実施しています。大学院の概要や特徴の説明、研究科ごとにより研究活動を知ることができる個別相談会も実施しています。特に、秋学期(11月頃)には、先輩院生との懇談会など、企画盛り沢山の「大学院WEEK」も開催。大学院入試が気になる方は、大学院入試サイトに過去問題も掲載されています。	大学院入試情報サイト http://www.ritsumei.ac.jp/gr/ 
	クラブ・サークルで 活動する	プロや日本一を目指すクラブから、身近な様々な交流を通じて楽しむことを中心とするサークルまで、運動系のみならず、学芸・学術など多種多様な活動団体があります。興味のあるクラブ・サークルが見つければ、見学などからはじめてみよう。 ※立命館大学のクラブ・サークルは学生の自主的組織「学友会」によって運営されています。	学生オフィス [衣笠] 研心館2階 [BKC] セントラルアーク1階 [OIC] A棟1階 http://www.ritsumei.ac.jp/sports-culture/ 
2 課外自主活動 (クラブ・サークル)	学部プロジェクト団体に 参加する	学部の学びを生かした組織的かつ継続的なプロジェクト活動を行う団体もあります。Ex)経営学部:丹後むらおこし活動 理工学部:飛行機研究会(→鳥人間コンテストに参加等)	
	課外での成長を支援する 奨学金・助成金制度 (課外自主活動団体助成 制度など)	課外での成長を支援する奨学金助成金制度です。課外自主活動団体の支援と自主的な学びの支援(=正課以外の学びに自主的に取り組む個人・集団向け)があります。課外活動を通じた学生みなさんの成長への思いをアピールしよう！	奨学金・助成金制度 http://www.ritsumei.ac.jp/scholarship/grow02.html/ 
	学生同士で 学び合う・支えあう (ピア・サポーター)	学内には、学生同士が学び合い、互いに成長できるピア・サポート活動を行う学生団体があります。1回生から参加できる活動もありますよ！Ex)ティーチングアシスタント(TA)/ライブラリースタッフ/留学生チューター/入試広報学生スタッフなど	
	自主ゼミ	学部での学びを深めるため、仲間と自主的な学習集団活動に取り組もう！登録することで、印刷費・教室貸与等の支援を受けられます(申請は学部事務室で受付)。Ex)生命科学部:Ritree(緑化プロジェクト) / 理工学部:自然科学ゼミ	

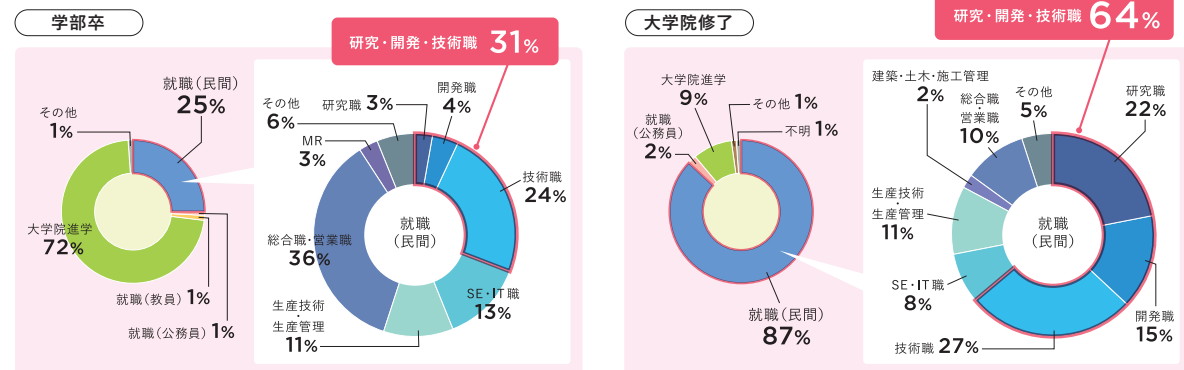
分類	項目	概要	問合せ窓口・QRコード
3 海外留学 国際交流	全学部を対象とした 海外留学プログラム	国際教育センターでは、短期から長期に渡る様々な海外留学プログラムを数多く展開しており、皆さんの留学に必要な情報の提供、および留学相談にあたっては、現地へ訪問するという留学以外にも、オンライン留学プログラムなど、オンライン活用による異文化交流活動を実施しています。詳細を知りたい方は、まずは国際教育センターのHPをのぞいてみよう！	海外留学プログラムHP http://www.ritsumei.ac.jp/studyabroad/ 
	学部独自の 海外留学プログラム	生命科学部には、学部・研究科独自の留学プログラムがあります。生命科学に関する専門的知識を基礎として、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チームワークなどの社会人基礎力と、それらを英語によって活用・運用できる力を備え、グローバルに活躍できる人材の養成を行います。学部・研究科それぞれのHPにて紹介動画を掲載していますので、是非ご覧ください。	学部独自留学プログラム https://www.ritsumei.ac.jp/ls/education/feature2/#program  研究科独自留学プログラム https://www.ritsumei.ac.jp/gsls/education/studyabroad/ 
	正課外の 海外研修・プログラム	授業外でも、学内にはいくつかの海外研修・プログラムが展開されています。	海外留学プログラムの紹介HP https://www.ritsumei.ac.jp/studyabroad/program/ 
	国際交流活動 異文化交流活動	Beyond Borders Plaza (BBP) は国境の壁、文化の壁、言葉の壁など様々なBordersを越えて繋がりを生み出し共に学ぶ、国際交流や言語学習を中心としたグローバルコモンズです。外国語をもっと学修したい、国内学生・留学生と交流したい、仲間と一緒に外国語学習や国際交流に関するイベントを実施したいなど、気軽に利用できます。	BBP http://www.ritsumei.ac.jp/bbp/ 
	留学生を支援しよう	国際教育センターでは、国際寮の寮生をサポートするレジデントメンター(RM)や正規留学生を支援するTISA、短期留学生を支援するSKPパティ、RSJPパティといった学生団体もあります。	国際教育センター https://bit.ly/3oN0Q3D 
	語学講座を受講する	学内のCLA(言語習得センター)では、外国語能力を高めたい方の学習サポートのための多様な講座を提供しています。正課授業やサークル活動などと上手く組み合わせながら講座を活用することもできます。	言語習得センター http://www.ritsumei.ac.jp/gengo/cla/  孔子学院 http://www.ritsumei.ac.jp/confucius/ 
4 サービラーニング ボランティア インターンシップ	ボランティア・地域貢献 (サービラーニングセンター)	災害復興支援、国内地域ボランティア、国際ボランティアなど、さまざまな社会活動に参加することができます。ボランティアに興味がある方は、学生コーディネーターに相談してみよう。	サービラーニングセンター http://www.ritsumei.ac.jp/slc/ 
	インターンシップで 社会を知る (キャリアセンター)	社会で働く経験をした。専攻する学問を現実課題に照らしてもっと深めたい。そんな方は、インターンシップを通じて、企業や自治体での就業体験をしてみよう。インターンシップ応募方法には、大学を経由して申し込むもの、学生が直接申込ものがあります。大学に到着した募集要項をHPでチェックしよう。その他、インターンシップに関する相談は、キャリアセンター個別相談を利用してください。	キャリア教育センター http://www.ritsumei.ac.jp/cec/ キャリアセンター http://www.ritsumei.ac.jp/career 
5 書籍に触れる	本を読む、 情報を調べる、 学びを深める (図書館)	300万冊を超える蔵書を誇る立命館の図書館。ネットで蔵書検索からまずはスタート!ちょっと気になるあの本を、図書館で借りてみよう。また、学習・研究をサポート資源を活用できる図書館ガイダンスを実施しています。	図書館 http://www.ritsumei.ac.jp/lib/ 
6 アルバイト	アルバイト	学生生活でもお金は大事!! 学校が設定した審査をクリアした、安心・安全なアルバイト情報のみを審査して掲載しているサイトがあります。アルバイトを通じて、学外の方とも交流してみよう。	学生アルバイト情報ネットワーク https://www.aines.net/ritsumei 

生命科学研究科における進路・就職データ

学部での学びの先には、さらに専門性を深める「大学院」という選択肢があります。生命科学研究科では、修士課程・博士課程それぞれの段階で、研究力を磨きながら多様な進路を描くことが可能です。ここでは、本研究科で学んだ先輩たちが、どのような進路を選び、社会へと歩み出しているのかをご紹介します。

博士課程前期課程

■学部卒と大学院修了の職種別就職状況



■2025年3月修了者の就職先例

[応用化学コース]	[生物工学コース]	[生命情報学コース]	[生命医科学コース]
花王(株)	(株)カネカ	(株)明治	アサヒビール(株)
(株)カネカ	東レ(株)	東芝インフラシステムズ(株)	ニプロ(株)
キリンホールディングス(株)	ニプロファーマ(株)	(株)NTTデータ関西	ライオン(株)
日本ガイシ(株)	(株)ロッテ	日本電気(株)(NEC)	中外製薬工業(株)
パナソニックエナジー(株)	国家公務員総合職(農林水産省)	三井情報(株)(三井物産グループ)	日本メナード化粧品(株)

博士課程後期課程

■博士課程後期課程への進学

生命科学専攻では、研究科に相応しい高度な専門の実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。(2025年度在籍者数(日本語基準生): 1回生15名、2回生5名、3回生以上11名)

	修了数	就職先		
		民間企業・団体	教育研究機関	その他
2020卒	13	4	4	5
2021卒	4	0	3	1
2022卒	4	2	2	0
2023卒	9	5	2	2
2024卒	7	4	3	0

■2025年3月修了者の就職先例

積水化学工業株式会社
株式会社島津製作所
セイコーエプソン株式会社
大学等の教育研究機関 (藤田医科大学、立命館大学)

立命館大学 生命科学部
学生生活を充実させる先輩たちのストーリー Vol.2

発行日 2026年3月

[編集委員会]

委員長 花崎 知則
編集事務 難波 しのぶ

[生命科学部事務室]

事務長 平居 聡士
事務長補佐 内藤 崇
専任職員 荒井 優/王 雪/難波 しのぶ/村岡 清香/横山光希

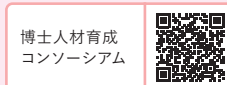
発行 立命館大学 生命科学部
〒525-8577 滋賀県草津市野路東1 丁目1-1
電話 077-561-5021 FAX 077-561-2890

ホームページ 学 部 <http://www.ritsumeai.ac.jp/ls/>
研究科 <https://www.ritsumeai.ac.jp/gsls/>

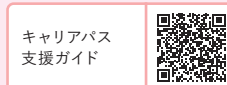
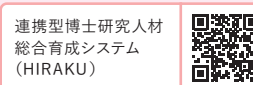
博士課程後期課程学生へのキャリア支援制度

問 RARA オフィス

本学では、博士キャリアパス形成を進めるために、各種講座・セミナーの開催や企業とのマッチングセミナーを開催しています。所属研究科で専門性を高めるとともに、社会で活躍するために必要な力やスキルを身につけることができます。



※リンクは学内者向けページ



〈お問い合わせ〉
生命科学部事務室 大学院担当
in-gsls@st.ritsumeai.ac.jp

生命科学研究科ホームページ
<https://www.ritsumeai.ac.jp/gsls/>





+R 未来を生み出す人になる。

立命館大学

RITSUMEIKAN